明治四十四年八月一日第三種郵便物認可
明治四十五年四月十五日發行
（毎月一回十五日發行）

廓清

第二巻第四號

呈 社會之改良・風紀之廓清・男女之貞潔・家庭之和樂 張

東京 廓清會本部 發行

廣く全國に同志の士を募る

公娼制度の廢止は我國數百年來の惡風陋俗を廓淸するの大事業なれば、天下志士仁人の奮勵努力を要するや大也。願くは覺醒せる國民諸君、男女を問はず老少を論せず、速かに來りて本會に入會せられよ。蓋し之れ國家社會のため也。同胞のため也。人道(ヒューマチニー)のため也。

東京市神田區美土代町三丁目三番地
廓淸會本部

廓淸會綱要

(一)**本會の目的** は男女間に貞潔の德操を進め、社會の風紀を廓淸し、家庭の和樂人生の幸福を增進するにあり。而して公娼制度は此目的に反する惡制度なるが故に之が全廢を期す。

(二)**入會の心得** 右の趣意を賛成するものは男女を問はず何人も入會することを得。入會希望者は住所、氏名、職業、年齡を記して本部又は支部に申込むべし。(賛助會員は口數を明記す)

(三)**會員の特權** 會員には本會機關雜誌「廓淸」を每號寄贈す。

(四)**會員の種類** 會員に二種あり。
一、**賛助會員** 本會の維持費として每月一口(二十五錢)以上を出資するもの。
二、**正會員** 每月金五錢を納むるもの。

(五)**會費の納入** 會費は郵便爲替、又は振替貯金東京一九五三三番益富政助に拂込まれたし。但し郵便集金にて集金する時は集金料金五錢を添加せられたし。

(注意)前項振替口座は、必ず一九五三三番益富政助氏宛とし、裏面に廓淸會々費と明記せられたし。

廓淸會本部役員

顧問	伯爵 大隈重信
會長	島田三郎
副會長	矢島揖子
同	安部磯雄
會計	山本邦之助
常務理事	益富政助
理事	內ケ崎作三郎
同	鵜崎庚五郎
同	矢吹幸太郎
同	山田彌十郎
同	小松武治
同	小崎千代子
同	島貫兵太夫

廓淸 第二卷第四號
明治四十五年四月十五日納本 一部定價金六錢
明治四十五年四月十五日發行(每月一回十五日發行)
編輯兼發行人 東京府下大久保百人町百三十八番地 益富政助
印刷人 東京市神田區三河町一丁目十六番地 小林照雄
印刷所 東京市神田區三河町一丁目十六番地 丸利印刷所
發行所 神奈川縣川崎町砂子百三番地 廓淸發行所



京都帝國大學教授醫學博士 松浦有志太郎氏

（獨逸留学中の撮影）



廓清會評議員 貴族院議員 江原素六氏

會說

廓清會とは何ぞや

（其四）道徳振興會

（一）內務省政策の矛盾、道德の無視

前號に於て我々は、內務省の宗敎政策を賛成し、それと同時に、公娼制度が如何に此の內務省の精神と矛盾し、衝突し撞着したものであるかを說いた。

が公娼制度との衝突は、單に宗敎尊重主義との間にのみ存するのではない。又實に內務省政策の根本義たる、國民道德の振興てふ大理想との衝突である。我々は斷言する、公娼制度を存置しながら、國民道德の振興を圖らんとするは、賄賂の收受を公許しつゝ、官紀の振肅を呼號するやうなもので、その根底に於て誤つて居るのみか、その政策の矛盾、殆んど滑稽に類するの擧であることを。

抑々公娼制度とは何か。之貞操賣買の公許ではないか、之姦婬の免許ではないか、恐しく云へば貞操とは何でもないものであつて、決して宗敎家や敎育家の云ふやうなものではない、金と引換へにいくらでも賣買の出來る物品に過ぎないのだ、と云ふのが公娼制度が無言の間に我々國民に說明しつゝある聲である。それ故にジョルダル博士は云ふた。『公許せられたる娼業は、軈て罪惡の公認である』と。嗚呼、罪惡の公認、惡事の免許、換言すれば道德の無視、風敎の破壞、倫理界の無政府主義、嗚呼文明を以て誇る日本帝國に、尙ほ且つ斯くの如き事實ありとは、豈驚くべきの至りではないか。

（二）道德の奴隷貞操界の無政府黨

遮莫斯くの如く政府自から道德の權威を無視し、之を蹂躪しながら、尙ほ且つ一方に於て道德の振興を圖らんとする之れ政府の自家撞着である。否、國民を愚弄するものである。本文の記者は、此頃或る遊廓を視察し、最も強くその情感を刺激された一事がある。慥く云はゞ讀者は直ちに推測して余が彼等幾多の娼妓の憐れむべき境遇、その自由の束縛、その奴隸的狀態を縷述するであらうと想像せらるゝであらう。が、それではない其以上の根本問題である。何をか根本問題と云ふ、曰く今日の公娼制度は、娼妓をして憐れむべき境遇におかしむる前に、道德をして憐れむべき境遇におかしめ、娼妓の自由を束縛する前に、道德の自由を束縛し、娼妓を奴隸として虐待する前に、道德を奴隸にし虐待すると云ふことで

ある。嗚呼如何に彼の廓内が不道德に依て滿されて居るか。浮田博士が、遊廓を以て罪惡の養成所なりと云はれたのは決して過言でない。あらゆる罪惡は殆んど此處に於て醸造せられつゝある。殊に日本國民の貞操道德に對して投せらるゝ爆烈彈は玆に於て作られつゝある。見よ、學校に於ては青年に對し品行を正くし、放蕩の道に歩む勿れと敎へらるゝけれども、公娼制度は之を嘲笑つて『若い時は二度とはなし、今ぞ遊ぶべきの時ならずや、飮めよ食へよ、而して淫樂に耽れ』と、日本の婦道は敎へて云ふ、貞操は命よりも貴し、汝等その操を潔ふせよ』と、しかも公娼制度はニヤリ〳〵と笑つて云く、『馬鹿な事を仰有るな、五十錢お出しなさい、何時でも賣つて差上げます』と。而して政府之に奥書して曰く、『右の通り相違無之候也』と。嗚呼、之れ文明の世にあり得べき事であるか。

（三）　臺灣の蕃夷にだも及ばさる乎

嘗て竹越與三郎氏の『臺灣統治誌』を見る。曰く（五〇八頁）『此の蕃夷も亦娼妓を賤民と號して、社會外に排斥し、良民は之と婚嫁するを忌む、以て支那文明がある程度まで達したる光景を想像するを得べし』と。臺灣の蠻民は貞操賣買業者を以て、之を排斥すべきものなりと思つて居る。然れども日本政府と日本國民とは、彼等を社會の上位に置き、之を町長として仰ぎ、之を市會議員として貴び、之を縣會議員として敬ひ、之を國會議員として神聖なる國政に與らして憚らないのである。此點に於て東洋第一の大帝國の國民道德は、臺灣の蠻民のそれにも及ばないと云はなければならぬ。若し夫れ道德そのものゝ側より之を云へば、全然其自由を束縛せられ慘酷なる虐待を受けて居るのである。されば有名なるオールコツ氏が、『日本人にあつては罪惡と德との間に、更らに踰ゆべからざる區別の設かれざるは如何なる次第なるや。日本人の道德及び國民生活の基礎に關する思想は全く吾人と異る』と、驚いて居るのは無理ならぬことではないか。

要するに公娼制度は、道德の蹂躙であり、人倫の破壞であり、恐るべき倫理界の無政府主義である。

此故に余は國民道德の振興を圖らんとする憂世愛國の士、我が敬愛なる床次次官に建策す。若し次官にして眞に國民道德の基礎の堅實ならざるを患ひなば、先づ第一に此の道德界の無政府主義者を征伐せねばならぬ。而して娼妓にあらで『道德』其ものを先づ奴隷の桎梏より解き放ち、之をしてその權威を行ふに自由ならしめねばならぬ。かくて今日迄此の『罪惡』を保護したる代りに、『道德』を保護するに努めねばならぬ。之れ當路者が現代に於て、道德の爲めに圖るべき第一義であると信ずる。

（四）　貞操はあらゆる道德の根底なり

況んや男女の道德はあらゆる道德の基礎をなすものであつて、凡ての人倫道義の中に於て、最も重きを置かるべき性質のものである。何となれば、忠君愛國も、武士道も、大和魂

も、國運の發展も、教育の進歩も、實業の振起も、軍備の擴張も、皆是れ國民あり、人間ありて後の事である。由來愛國心の熱烈なるは大和民族の花なりといふ。而かも國民なくば誰か國を愛するものぞ。忠孝一致は我國の國粹なりといふ然かも臣子なくば誰か忠臣孝子たるべきぞ。然らば則ち愛國論も忠孝主義も、政治も、教育も、實業も、軍備も、基づく所は國民であり、人間である。

然らばその人間は如何にして生るゝや、云ふ迄もなく夫婦の結合に因りて、造化の神によりて賦與せられたる生殖作用に因りてである。然らば即ち凡てのものゝ根抵は、實にこの生殖作用にあると謂はねばならぬ。嗚呼世に是程尊嚴なるものがあらうか、これ程神聖なるものがあらうか。然るに公娼制度は此の人生に於ける最も尊嚴なるべき男女間の事を以て、遊び戯れ事と思つて居るのである。道樂者の娛樂の道具に供して居るのである。此の最も神聖なるべき生殖機關を以て、玩弄物と見なすのである。斯の故に公娼制度は、宗敎道德の戒律を離れて、之を見るも、人類の根本を侮どり、自然の理法を愚弄するものであつて、又實に人類の敵、自然法の敵といはねばならぬ。

(五) 御都合主義の道德に如何で權威あらんや

且それ、斯の如き矛盾せる政策の爲めに、內務當局者の國民道德振興策が如何に其效果を妨げられつゝあるかを見よ。

今日の青年は道德の定義を下して曰ふ『道德とは政府が愚なる人民を統御する便宜の爲、自分勝手に定めたる訓令の一種である』と。之れ實に驚くべき現代思潮であるが、併し之も亦已むを得ざる所であらうか。何となれば、政府は其敎育に於て宣言する處と其政策に於て實行する所と全然矛盾せる事を敢てして憚らないのであるから。見よ學校に於ては品行を方正にせよと敎ふるかと思ふと、一方に於ては道樂不品行の機關を保護して居る。其女學校に於ては貞操を重んせよと敎ふるかと思へば、一方に於て稅金を徵して婦女の貞操賣買を公許しつゝある。是に於て多少頭腦の判斷力を有する者は考へる。政府は都合がよければ、貞操賣買を公許し、國民に姦淫を免許し。都合が惡ければ不品行をするな、貞操を破るなと云ふ。つまり道德なるものは、御都合主義のものであつて恰かも陶器師が指先きで土瓶を作る如く、政府が國民を統御するに都合のよいやうに作つたものであると。噫、御都合主義の道德、土瓶式の道德、斯の如き道德をして權威あらしめ生命あらしめんとする。之れ豈枯木に花を咲かすよりも難き業ではないか。

吾人の信ずる所によれば、道德は絕對的のものならざるべからず。何人も之を守らざるべからず。又如何なる場合にも之を守らざるべからず。故に敎育勅語に於て、至尊は『朕爾臣民と共に拳々服膺して云々』と仰せられた。道德は陛下御自身も之を守り玉ふべきである。斯くてこそ始めて道德の權威は保たれ、然るに獨り人生の基礎道德とも謂ふべき貞操

道に於ては守るも可、守らざるも可なり、否、守らざるも可なり位ではない、守らざるを最も可なりとしてか貞操賣買業者に保護を與ふる事の如き、殆んど驚く許りである、諸新聞は洲崎遊廓の火災を以て、公娼問題解決の時機漸く到來せるを曰ふも、尾崎東京市長は、彼地の地代を免除し、其他の諸掛を免除し、飽迄彼等の醜業の繁榮を保護するの方針を取るといふ。吾々は殆んど當局狂せるに非ずやと疑ふ次第である。

(六) 西洋諸國と日本との賣淫的事實の差異

或は曰はん『歐米の諸國尚且つ賣淫の事實頗る多く、風紀の紊亂驚くべきものあり。豈獨り我國のみならんや、之れ已むを得ざるの社會的害毒なり』と。之れ一を知つて二を知らざる者の言である。又吾徒の主張の要點を知らざるものである。我々は今賣淫の事實如何を論議しつゝあるのではない。其の事實に對する政府及び國民の態度如何を論じつゝあるのである。諸外國に於ては、今や僅かに一二ケ國を除くの外は悉く公娼制度を撤廢して居る。從つて彼等の間には、最早賣淫業なるものはない。彼等は政府も國民も此の如きを以て罪惡と認めて居る。之に對して常に反抗の態度を取つて居る其故に諸外國に賣淫の行爲ありといふ事實は、取も直さず、我國に於て泥棒や、賭博犯が、如何程取締りを嚴重にしても之を無くする事の出來ざるが如き意味に於て存在するのである。若しさうであれば、之は左程恥辱ではない。否恥辱は恥辱とするも、其の恥辱は竊盜犯、賭博犯を出すを以て國家の恥辱と思はねばならぬ程度に於ての恥辱である。我々は、勿論我國に犯罪の絶えない事を以て決して國家の名譽とは思はぬ。けれども既に之を取締るに夫々嚴重なる法律を設け、官吏を置きて常に怠りなく監督しつゝある以上は、政府の義務は謂はゞ盡されたもので、之れ以上の事は只宗教、教育の力を借りて、それこそ國民道徳の涵養に待つより外はないのである。

(七) 營業か罪惡か、問題の要點茲に在り

然るに公娼に於ては然らず、こは犯罪事項にあらずして、税金を納めて營みつゝある營業である。特に政府の許可を受けたるものである。吾々が若し彼等營業者に對して、其の不道徳を責むるが如きとあらんか。彼等は直ちに怒りの眼をむき出し『失敬な事を云ふな、我々は鑑札を取つてやつて居るんだ』と逆捻を喰はすのである。かくて非常な權幕を以て、横暴を逞ふし而かも警察官の丁寧なる保護の下に、公然營みつゝある商業である。そこで西洋のそれと、日本のそれと、其不潔なる風俗の存する點に於ては同一であらう。けれども之に對する國家の態度は大なる違ひである。即ち一は營業と認め、一は罪惡と看做して居る。同じ事實、同じ狀態でも、之を營業として居ることと之を犯罪として居ることとは、その間に天地雲泥雪と墨との差があるではないか。何れの國に

も盜賊はある。然し惡事としてあるのであれば致方はないと諦めねばならぬ。吾々は日本に泥棒のあることを以て恥づるには足らぬ。然乍若し泥棒が罪惡としてあるのでなく、泥棒營業として存するものならば、之は大に恥づべき事である。斯かる國民の他國に信用なきは云ふ迄もない事である。それと同じく醜業婦は何れの國にもある。然し他國に於ては之を罪惡視して居るのに、獨り日本に於ては之を公許して營業と看做して居るに至つては、實に恥づべきの至りであると思ふ。

吾々は、所謂密淫賣を以て罪惡と認めて居る我政府が、何故に今一歩進めて、凡て貞操の賣買を爲すもの、若しくは爲さしむる者を犯罪者と見做さぬであらうかを知るに苦しむものである。

(八) 政策と教育及び道德とを調和せしめよ

要するに賣淫の行爲に對しては、國家は飽迄反抗の態度を取らねばならぬ。道德、教育、宗教が宣告するが如く、此行爲を以て罪惡と認定せねばならぬ。既に罪惡である、從つて之は如何やうな場合があつても、決して公許すべき性質のものではない。政府の政策及制度は、常に教育宗教と同一の方向を取らねばならぬ。斯くて始めて道德宗教との矛盾衝突は取り除かるゝであらう。斯くの如くして尙且起り來る賣淫の事實こそ、所謂已むを得ざる社會的害毒といふことが出來るいゝ、已むを得ぬと云ふ言は玆に至つて始めて用ゐ得べきである。

(九) 男女道德に對する國家の態度を示せ

床次次官は此頃の三教會同に對する非難者に答へて、「之は只宗教に對する國家の態度を示したまでゞある。即はち宗教は輕んずべきものにあらずして、尊重すべきものなりとの意志を發表したるだけの事である」と、語つたと傳へ聞いて居る。そこである。それで澤山である。而して公娼制度に就て吾人の要求する處も、亦それに過ぎない。願はくば貞操道に對しても、釋迦の所謂「例令利養の爲めと雖も、男女の色を賣る勿れ、これ正しき生活にあらざるなり」との意志を政府自ら發表し、貞操は輕んずべきにあらず、尊重すべきものなりとの國家の態度を定めて貰ひ度い。要するに營業が罪惡か問題の楔子は玆に在る。

且つ政策として之を見るも、實に拙劣此上もなき制度であつて、之が病毒豫防の功なきは松浦博士の言明する所であり、且又之が私娼撲滅の助けにならない事は、幾多の事實が證明する所である。今日迄吾々は此二個の功あるを信じたればこそ、此制度を採用しつゝ來つたのである。然るに之が全然無効なる事を知るに至つた今日、何を苦しんでか、尙且此制度を大切に保護するの愚を學ばんやである。時は至れり、今は迷ひより覺むべき時である。之を要するに道德振興を理想とする當局者の計畫を實行すべき第一着手は、公娼問題の解決であつて、之が解決の爲めに起れる本會は、やがて當局者の意志を奉ずる道德振興會といふことが出來る。

社說

時代の休徴

（一）

△昨年四月神田青年會館に我廓清會の發會式を營むや、四方有志の集り來る者無慮一千五百名、さしもに廣き青年會館も聽衆堂に溢るゝの盛會なりしが、其後屢々開催しつゝある吾徒の演説會は每回立錐の餘地なく會場の狹隘なるを憾むの盛況を見つゝあり。而も其聽衆の靜肅にして眞面目なる、吾人は常に『時到れり』との靈感を催さざらんとするを得ざるなり。

△廓清會の設立を聽き欣喜雀躍して之を迎へしは、群馬縣のそれなりき。而して立ろに有志の間に議せられて支部設置の計畫は成り、本年一月之が發會式を擧ぐるや宣言して曰く我群馬縣が全國唯一の廢娼縣たるは、實に愉快にして且つ名譽とする處にして、此非公娼の主義精神は單に我一縣に止めずして全國に向つて發揮普及すべし、之れ吾徒多年の希望なりと其意氣や熾んなりといふべし。

（二）

△大阪難波新地炎焼の報到るや、矢島老女史慨然として曰く吉原は焼け、洲崎は海嘯に逼ひ、大阪の遊廓は二度も大火に殲れりといふに、日本の基督教徒たる者尙且つ神意を解するに鈍ならんか、實に禍なりと、斯て八十の老軀を提げて直に大阪に馳せ向はれたる樣、壯者をして後へに瞠若たらしむ。

△而して大阪に於ける焼失遊廓の再興反對運動は中の島公會堂に於ける三千餘の大集會を以て始まり、終に成功を遂げたり。而かも殆んど驚く程迹に、且容易く成功したり。これ素より當局者の英斷に出れりとは雖、抑も亦時勢の推移玆に至らしめしものと曰はざるべからず。見よ、北區曾根崎新地遊廓廢止運動の際、我黨の有志は惡戰苦鬪四十日に亘りしが、此間大阪の新聞紙は何等の援助を與へざるのみか、該運動の報道だも之をなすに躊躇したり、然るに今回の運動開始さるゝや新聞紙は社說に報道に頻りに正義の聲を擧げて倦まざりき、殊に大阪每日新聞の如きは數日に亘り、我グレゴリー君の廢娼論を揭げて、之を江湖に紹介したり。吾人は此間にありて時代の休徴を見ざらんとするを得ず。

（三）

△京都に廓清會支部の發會式を見るや、其辯士の一人たりしは京都帝國大學醫科大學敎授にして、皮膚科の科長たる醫學博士松浦有志太郎氏其人なりき。而も博士が其醫學上の立場

と其多年の實驗よりして公娼制度の愚を喝破する所、實に剴切にして痛快を極めたり、曰く公娼を以て病毒の豫防策となすは、恰も一瓶の昇汞水を以て太平洋を消毒せんとするに等しく、殆んど九牛の一毛だけの効果もあらずと、之豈公娼論者唯一の根據を覆へし、彼等をして全く其口を緘せしむるに足る斷案に非ずや。

△由來該制度の必要を認めたるは、全く社會衛生上よりなりしに、今や斯道の大家、其深奧なる學術研究の結果と、動かすべからざる多年の實驗的事實によりて明言し斷定する處斯の如く、吾人の運動は百萬の援兵を得たるの感あると同時に眞に公娼制度に止めを刺すものといふべし矣。

△加之同地に於ける最有力の新聞たる京都日出新聞は支部發會式に際し、連日六日に亘り最も精密に吾徒の意見を紹介し市民をして、益々此惡制度を廢止することの急なるを感せしめたり。嗚呼此時代の休徵を如何に見むとする乎。

△靜岡縣に於て支部の發會をなすや、該支部の指導者は同地に於ける第一流の實業家にして、而も其人格に於ても一世の指導者たるの人なり。而して發會式に來會するもの無慮一千八百名、其他入場するを得ずして場外に佇めるもの空しく歸り去しもの亦少からず、同市稀有の盛況を見たり。かくて其翌晩は著しく二長町(遊廓)の遊客を減せしめたりといふ。殊に聽衆中貸座敷業者の一子息ありしが、大に感動し父に向つて頻りに貸座敷の廢業を勸告しつゝありといふ。

(四)

△斯の如くにして廢娼運動は全國に漸く隆んならんとする間に、東京に於いては、昨春四月八日吉原の大火ありて將に一週年に垂んとする三月二十一日又復洲崎遊廓は火を發し、折からの強風に煽られ見る〳〵うちに遊廓の三分の一を灰燼に歸し、廓内百五十戸廓外一千戸は、紅蓮の舌に甜め盡されぬ。大阪の難波新地燒けて未だ二月、殊に洲崎が海嘯に呑まれし慘狀もいまだ我等の耳目に新なる處なるに、如斯絕えず遊廓が樣々なる災厄を蒙るは、ここに何等かの意味なしとせんや。

△是に於て東京每日新聞は『公娼問題の解決』と題し長文の論說を揭げて曰く。

曩に吉原大火ありて、流石の江戸名所も跡なくなりたるに加へて、大阪にても新地遊廓に火災起りて、其半を燒盡せり。洲崎遊廓は昨年海嘯に呪はれ、今また火災に呪はれ災厄相踵ぐの狀にあり。此の如く天の遊廓に禍すること昨今に至りて頻々たるは、是れ豈公娼制度の根底に一大打擊を加へむとするものならざらんや。

かくて公娼私娼の利害を論じ、之に對する佛教基督教の態度を比較し『日本の公娼制度も茲に至りて、其根底に一大動搖を感せずんば非ず』と曰へり。又萬朝報は曰く

宗教家をして曰はしむれば、遊廓の火災頻にたるは、天の懲罰なるべし、遊廓の存在は知らず識らず其名を傳播する

のみにして風教に害あるものにして、遊廓廢止論は此際一廚の勢力を得べし。

△更に大阪朝日も亦

大阪では南北遊廓が焼ける。東京では吉原洲崎が焼ける。何んたか祝融大に遊廓全滅計劃を立てゝ、先づ東西の大都會から着手してゐるらしく見える。遊廓といふものが頗る非現代的の代物なることは先づ小說を見ても分る。今時の小說に遊廓を描いたものなど殆んどない。

と曰ひ、帝國新聞の如きは『火は廓清なり』と題して

昨年四月、業火北東京を焦土と化してより、水若巽廓を甞め、更に本年に及びては祝融南大阪に禍して間もなく、今や再び巽廓の燃滅を見る。即ち天災地妖の起る毎に、必ず遊樂醜穢の巷を包容して恰も天意の懲罰を意味さるものの如きあり、昔バビロンを亡し、ソドム、ゴモラを焼きたる天火の、再び天の一角に燃えて、罪業の巷を焼盡し去らんとするが如き、恰も群烏火を啄んで、縱横に亂雲の間を翔るに似たり。

と論斷せり。

△如斯時論は今や急轉直下の勢を以て一變し、輿論の聲益々盛んならんとする、之れ果して如何なる時代の休徵ぞや、然り『今ぞ實に救の日惠みの時也、我等は時を知れり、今は寢より醒むべきの時なりしにあらずや』

△此に於てか日本メソヂスト敎會、東部年會は左の決議をなし、將來廓清會の運動に對して大なる後援を與へんとす

拜啓、天祐の下に貴會益御清榮奉賀候、陳者別紙決議案は本日當年會に於て滿場一致を以て決議致し候間、御参考迄に御手許へ差出御一覽被下度候。尙貴會の上に御恩寵の益豐ならん事を奉祈候 匆々

明治四十五年四月三日

日本メソヂスト第五回東部年會 書記 鵜飼猛

決議案

本年會は、廓清會の事業の時宜に適したるを認む。因て本年會員は可成該會の運動を後援せんことを決議す。

明治四十五年四月三日

提出者 エチ、エチ、コーツ

△基督敎徒斯の如き時に方りて佛敎徒の一青年は又記者に書を寄せて曰く。

痛快々々、公娼全廢運動の大快擧、實に吾等の双手を擧げて大に贊成する所に候。元來吾等は先祖代々より日蓮宗にて法華經の信者なれば、是れ高祖上人樣の御聖旨にも適へる大義と確信するものにて 。如何にもして腐敗、不倫、沒人道極まる公娼制度の大逆政を此日本の地より撤廢に努むべきは吾等現代青年の責任と信ずるものにて候へば、御會の起旨に對して、誰が何といつても贊成せずには居られず候。就ては御會の會員は皆基督敎信者によりて組織されしものゝやうなれど、御會は基督信者でなければ入會出來

ぬ者なるや如何、若し然らずとせば入會を熱望するものにて候間、可然御承諾御願申候。

『爾曹暮には夕紅に由て晴ならんと言ひ、曇には朝紅また曇に由りて今日は雨ならんといふ。國民よ、空の景色を別つことを知りて時の休徵を別ち能はざる乎。』吾人は更に靈界の指導者を以て任ずる宗敎家の覺醒を促がすと同時に、大に當局者の猛省を促さざるを得ず。而して國民道德の振興に熱心にして賢明なる床次内務次官が、必ずや此の時代の休徵を看過するなきを信ぜんと欲するものにして、此點に於て東京每日新聞は吾人の曰はんと欲する所を曰へり。

（六）

曰く『公娼と私娼とは、其社會に及す利害を研究して、社會は其の有利なるものに就かざるべからざるの必要に迫れり而して公娼と私娼とは利害共に相半し、殊に今日は衛生的見地より公娼を是とするの說も、頗る軟弱なるに至りたれば、其の公娼制度に影響する所甚鮮少なりとせず。此の如く公娼必ずしも可ならず、私娼必ずしも公娼に劣ると云ふ可からざるに、吾當局者は尙公娼制度の維持に努めむとする歟。吾國にも公娼を禁せる地方ありて、一概に公娼國を以て目すべからざるも、廢娼可ならば廢娼に就くべく公娼可ならば現今の公娼制度をして更に時勢に適應せしむべく改造するに努めざる可からず。政府の意見公娼にありや廢娼にありや不明にして、公娼制度の鍵を以て、地方官の掌中に委ねて已むが如きは、決して社會に忠實なるものと云ふ可からず。床次内務次官は、宗敎利用に意ありて、新に基督敎の如きをも從來の神道佛敎を同一列に上せて大に社會風敎の爲めに盡瘁せむとす。床次君が宗敎利用を思立しは、歐米に於ける宗敎活動に感激する所ありてなりと云へば、此の如き進步的頭惱を有する床次君にして、公娼問題に想到らざるが如き事は、萬々之れ有るべからず。基督敎の勢力を認め、神道佛敎と等しく之が利用に着眼せられし床次君は、同時にまた基督敎を背景の一部分に加へて、吾公娼制度を觀察する時、如何の感を催さるゝや、遊廓に火災の頻々たる、何等かの暗示を有するものと見て、公娼問題の解決を慫慂すること此の如し。』

嗚呼又何をか云はんや、時代の風潮斯の如し我等豈奮起せざるを得んや。

本會評議員本多庸一先生去三月二十六日昇天せられたり哀悼の念に堪えず謹みて吊意を表す

明治四十五年四月十五日

廓清會

衛生上より娼妓を必要とするや

京都帝國大學教授 皮膚黴毒科長 醫學博士 松浦有志太郎

（一）花柳病豫防法は之に近接せざるより外なし

私は平素醜業婦或は娼妓といふやうなものを、廢したいといふ意見を有つて居つた。所が此度廓淸會が當地に開かるゝに就て、幹事の方から一場の意見を述べるやうに請はれたので、喜んで御請をした次第である。私は最初先づ『公娼を禁止すべし』といふ演題を出して置いたが、丁度服部氏の演題が『公娼は廢すべし』といふので、似よつた演題が重なつて興味がない處から俄に『衛生上より公娼を必要とするや』といふ事に改めたのである。然るに實は單に此公娼廢止の意見を述べる積りであつたので、却つて自己の職業であるところの衛生上よりといふことに就ては話す積りでなかつたのが突然變更するに至つた爲め、不完全な調査を以てするのは甚だ遺憾と云ふ可き、充分衛生上の方面を廣く涉つて調べることが出來ず、やはり平素抱懷せる公娼廢止論に多少衛生上の見地より自己の觀察をつけ加へる位に止めたいと思ふ。する處である。で、

私は去る明治四十一年の夏、大阪毎日新聞が主催して北陸地方の巡回講演を試みた時に、加賀の金澤に於て一回花柳病の危害に就て講演をしたことがあつた。其時に私が專門の書物に就て研究し、花柳病の害惡及之れが豫防法につき種々泰西諸家の意見を調べたことがあつた。其結果は之を一言に約すれば、花柳病の如き危險なる憎むべき病に――其危險の程度は其當時委しく話しておいた――罹らぬやうしたいと思ふならば、其危險の源泉たる處の賣笑婦に近かざるより外はない。といふ事を述べた。これが豫防法は醫學上より提出したるもの等、種々の方法もあるが、それ等は要するに取に足らざるものであつて、唯危きに近かざるより以外に何等の手段もないのである。即ち性慾を抑へて人倫の道に逆らつた交りをなさざるにある事を斷言したのである。而して情慾即ち人間の性慾を抑へるといふ事は健康上に於て毫も害のないのみならず、却つて精神上及身體上利益があるといふ事を附言したのである。

又昨年十一月、我京都大學は余に託して特別講演を開き。花柳病に關して凡そ七回に亘る講演をしたのであつたが、其時にも色々諸家の著述を繰返して調べ、之に自分が多年の經

驗によつて得たるものを綜合して、遂に同一の結論に到着し之を告白した樣な次第である。

《二》 驅黴制度は太平洋を消毒せんとするが如し

花柳病を防ぐには公衆衛生といふものがあつて、國家は國民の健康を擁護せんが爲めに賣笑婦の檢黴制度とか或は驅黴制度とか言つて、娼妓の花柳病を檢査し、罹病者は之を病院に收容して治療を加へるといふ方法を取つてゐるから安全であると考へて居る人がある。此制度方法たるや誠に其主義は立派なものであつて、國家が國民を保護せんとする其思想其志は有難いものであるが、遺憾ながら此檢黴制度とか驅黴制度とかいふものは、實際に首を突込んで調べて見ると、或は其專門家たる吾々花柳病學者の眼から見ると、勞あつて効なきものであつて、忌彈なく云へば現今の智識に於て及び現今の國家經濟力に於て、行ひ得る所の現行制度は、單に外觀的形式的のものに過ぎず、それに依つて何等の奏効を殆んど認める事は出來ない。唯洵に九牛の一毛を除くが如きものにして、恰も太平洋の水に、一瓶の昇汞水を入れ、依つて以て太洋の海水を消毒せんとするに等しき企てであるといふ事を斷言し得るのである。

これは決して自分一個の私見にあらずして、獨逸諸學者の意見、或は露西亞とか墺斯太利、匈牙利等に於ける斯學專門家の意見も、略同一であつて、到底是に依つて安全を期する事は出來ぬといふ事に歸着してゐる。詮する所花柳病なるものゝ性質、病の本體に鑑みて、到底今日の吾々の智力では或は吾々の國家の經濟力ではそれ以上に完全にする事は覺束ないのである。

話が少し枝葉に亘るが、何とか云ふ人……其人の名前を一寸逸したが、チヴイリザチオン、イスト、ジフ井リザチオン(Civilisation ist Syphilisation)と云ふ事を言つた人がある。即ちチヴイリザチオンといふのは文明開化する事で、ジフ井リザチオンは黴毒を振り撒く謂ひである。つまり文明開化するといふ事は、黴毒を振り撒くものであるといふのであるが、此言葉は悲しい哉、今日に於て事實であつて、文明開化は花柳病の蔓延と正比例する有樣である、人間の知識が進み、文化が發達するに隨つて其邦の花柳病は漸々殖えて行くといふ奇現象を呈してゐる。

文明が進めば醫學が進み、衛生が普く行き亘り、個人の豫防法も進む筈であるから、病氣も少くなる譯で隨つて花柳病に罹る者が減少しなければならぬ筈であるのに、却つて之に反する事實を示すのは眞に矛盾と曰はなければならぬ。文化の發達に伴つて檢黴制度とか、個人の花柳病に對する豫防法が進み、豫防藥も進んで、花柳病が防ぎ得られさうなものであるにも關らず、今日迄の統計の示す處によると、獨逸邊りでも年々花柳病が殖えると云つて嘆いて居るのである。最も醫學の進んだ獨逸にすら年々花柳病が增加してゐるのみならず、最も知識の進んでゐる階級、即中流社會或は學生な

どが最も多く之に罹つて、寧ろ下等社會の方が少いといふ現象である。即ち花柳病患者の候補者は學生とか多少懷廻りのいゝ商家の番頭とかであつて、智慧も少し、懷廻りも惡い人間は却つて罹らない。是に於て花柳病の豫防といふものは智慧才覺にあらずして、それよりもずつともとの立場に歸つて、德性を涵養し、德義心を養つて、人倫に外れたる慾を抑へ、危きに近かずといふ正しき道を歩む以外に、花柳病を避ける安全なる方法はないといふ歸結を得るのである。

（三）　生涯驅黴院に入れずんば駄目也

以上は個人即ち之を避ける側からの立論で、個人衞生、語を換へていへば男の方から云つた衞生である。今之を他面から觀察したならばどうか、政府或は賣笑婦の側から言つたならばどうか、男子の方から見て近寄らないのが善いならば、一層近寄つて惡い樣な危險物は無い方がいゝのである。どう詮じ詰めて考へても、男の方に對して安全を保障するにはさういふ方面に行くなといふより外に仕方が無のであるから、行かなければ向ふで困る。それなら一層向ふで止めるやうに差上めたらいゝ、論理はいや應なしにかういふ斷定に導き來るのである。需用を否定する供給があるといふ理窟はない。

元來婦人の生殖器は甚だ複雜極まるものであつて、其中に潜伏してゐる所の花柳病の病毒を悉く除き去ると云ふことは、該病の專門家が全く匙を投げてゐる所である、であるから賣笑婦の此病氣を全治するといふ事は決して出來ないもので、幾年間驅黴院に入れて置いても治癒するものでない。それは殊に淋病に就ての事であるが、乍併花柳病の中では淋病が最も多くして、最も甚しき禍害を人間に與へるものである。此病毒が一旦婦人に着いたならば最早終生治癒せざるのみならず、更らに男子の媒介に依つて一家即ち細君の生殖器に移植せられ、それが爲に起る所の禍は實に甚しく、まことに恐れて而して怖るべきは淋疾である。黴毒の方はどうかといふと、之れも亦容易に治らないもので、一旦之に犯されたものを他人に傳染せしめぬ樣、即ち其傳染危險が大に減却する迄には、今日の所三四年以上四五年の日子を要するので、黴毒に罹つてから後三年或は五年の日數を經過しない間は、其者の黴毒が他人に傳染する危險がいつでもある。されば云つて一旦黴毒に罹つた賣笑婦を三年間も四年間も病氣の治るまで或は淋病に罹つたものは生涯驅黴院に入れて養生させるといふことは、如何に日本の國が富んで居つても出來る事ではない、亞米利加の富を以てしても不可能の事といはなければならぬ、從つて現行制度は其結果より之を見れば、誠に憫むべき事を毎日行つてゐるもので、衞生上より公娼を必要とするかといふ標題に對して、娼婦は少しも必要はないのみならず、賣笑婦は悉く有毒の者と見做して差支はないといふ事は花柳病專門學者の異口同音に一致せる意見で、而も如何に檢黴しても驅黴法を行つても罹病者を健全にする事は出來ないものであるが故に却つて衞生上から娼婦は絕對的危險であつて不必要なものであるといふ斷定を得るのである。

《四》 性慾問題の無資格者のみ

然らば衛生上よりして娼婦必要論者は或はもう少し外に考を持つてゐるのであるかも知れぬ。或は賣笑婦があるから花柳病が蔓延しない、即ち賣笑婦が堤防を築いてそれによつて瀰蔓を堰き止めて居るので、その土手、防波堤として必要であると、斯ういふ風に考へてゐる人も隨分あるやうである。併し乍ら之は眞に哂ふべき考である。彼等は賣笑婦によつて堤防を築き社會に花柳病が流れ込むのを防いでおつて、若し彼等がなかつたならが花柳病が良家の子女にまで蔓延すると考へてゐる。實に一笑にだも値せざる愚見で、賣笑婦があるからして花柳病が既に非常に蔓延して居るのである。其れが男子の媒介に依りて家庭にどし／＼流れ込んで來る。其源泉は實に彼等賣笑婦ではないか。第一表及第二表の統計は何を說明してゐるのであるか、統計は明に彼等の立論を粉碎してゐるのではないか。

或はまだもう一つ他に考を有つてゐるかも知れぬ。それは人間といふものは性慾の動物である。年頃になつたならば情慾の發動といふものは、生理的必然の機能である、其生理的必然の發動たる情慾は、これを滿さなければならぬ。強て之を抑制せんとするは不自然極まる不合理のものであるとして生理上の立場より娼婦を必要とする人があるかも知れぬ。否此謬想に囚はれてゐるものは決して尠くない、近代的文明の影響を受けて、一種人間の曲つた贅澤な思想を抱懷してゐる謂所似非自然派とか自然主義とかいふやうなのは其類であらう。又不注意なる淺薄なる學者は或は生理學の一方面のみを見て、さういふ謬見を有つてゐる樣である。彼等の說く所によると、飢えて食を求め、渴しては水を飮む、人間が一定の年齡に達したならば情慾の發動は自然であつて、生理上必然起つて來る情慾は充さなければならぬといふ結論をしてゐる酷い學者があるもので、餘り色々の書物を勝手次第に讀むのは、若い者には決して利益ではない、之れが抑も昔から我邦にあつた大なる謬られたる一部の思想であるが、晩近科學の這入つて來たのと共に生理學といふものが這入つて、其生理學の解釋違ひから斯ういふ間違つた思想を產んだので、人間は飢えては食を求め、渴しては水を飮むが如く、情慾も同樣に自然の生理的の發動であるから、それは滿足させなければならぬといふのは、愚も亦極まれりである。彼等は情慾といふものを飮食と同樣のことに考へてゐるのである。抑も飮食と性慾とは根柢に於て大に趣を異にし、大に資格を異にしてゐるではないか、生理的に本體を異にしてゐるではないか水とか或は食物とか云ふものは、是は生存を保つ上に於て一日も廢すべからざる所の要素である。即ち吾々の身體は飮食物空氣等によつて、今日今日の生活を保つて行くのであつて一日も廢すべからざるは云ふ迄もない。然るに性慾といふものは何であるか、性慾は子孫を繁殖させる爲の自然の働きである。決して此性慾を遂げるといふことは個人の利益、個人の興味、個人の健康の爲めに計つたものではない。飮まざれ

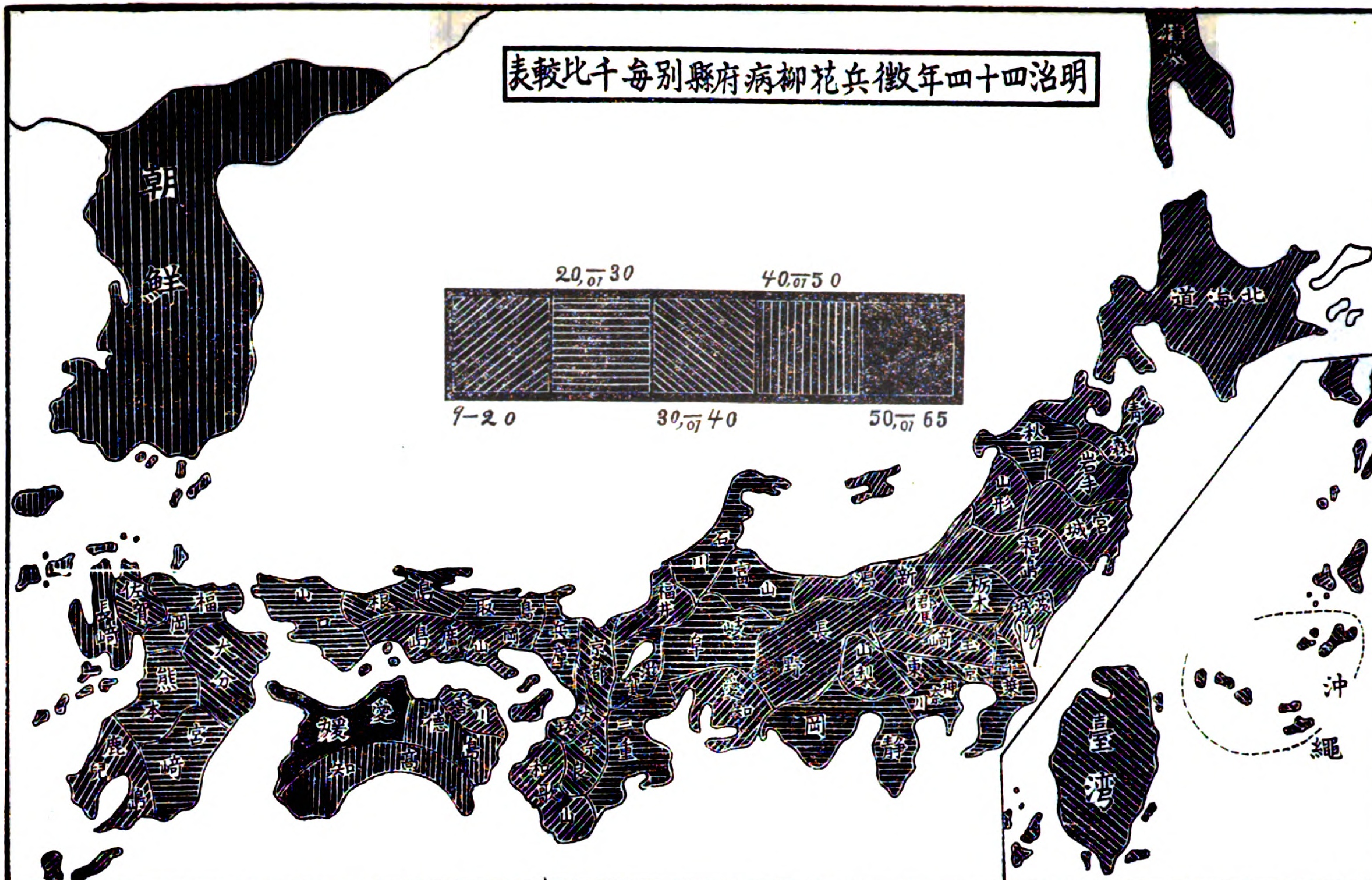
ば渇し、食せざれば飢えて死ぬけれども、性慾といふものは子孫の永續を計る所の貴重なる働きであつて、今日情慾が起つたからして直ぐにそれを遂げなければならぬといふ理窟は毫もないのである。

人間は先づちやんと自分が獨立し、自分の身體を滿足に養ふ事が出來、其力が餘つて妻を迎へ子を育つる餘力があつて初めて性慾の働が本然の効を全うするのである。未だ家を持ち妻を養ふだけの餘力の無い人間が、奚んぞ性慾を行ふ資格あらんやである。然り彼等は性慾問題の無資格者と云はなければならぬ。

孟子が齊の宣王に説いた話の中に、昔大王色を好むと言つて、文王の父大王の色を好むのを賞めてゐるが、色を好むのは決して惡事ではない、人間の根本を永續する貴重な働きであるが、色を好む資格の無い者が色を好むのがよくないのである。色を好むにはそこに不文の方法順序があつて、其方法順序を誤らずして正當に色を好んでこそ始めて其色が本然の價値を發揮する事が出來る、然るに妄りに方法順序を誤るが故に、其結果は快樂に非ずして苦痛を持來らし、健康を損害し、益々人間の墮落を速かならしめ人類の進化を阻害するといふ結果になるのである。是に由つて之を觀れば衛生上よりして、即ち生理的慾情を遂げる上より娼妓は何の必要もない其方法順序に到らずして情慾を遂げるといふことは害こそあれ決して益がないのである。性慾を抑制して居ればそれ丈の働を外に向ける事が出來るから腦の働き、身體の働きが一層增す譯である。馬をして能く走り能く强からしめんには、馬の性慾を絕つにある、之と同樣に、人間の活動も性慾を抑へておつたならば、それ丈の精力が他に向つて行くが故に、腦の働き知識の働き、或は身體四肢の活動の力がそれだけ殖えて行くのは明白な話である。要するに性慾は個人の健康の爲に必要なきのみならず、これが抑制は却つて强健なる兒孫を得、人類の進化に資する所以であるといふ反對の結論に到着する。

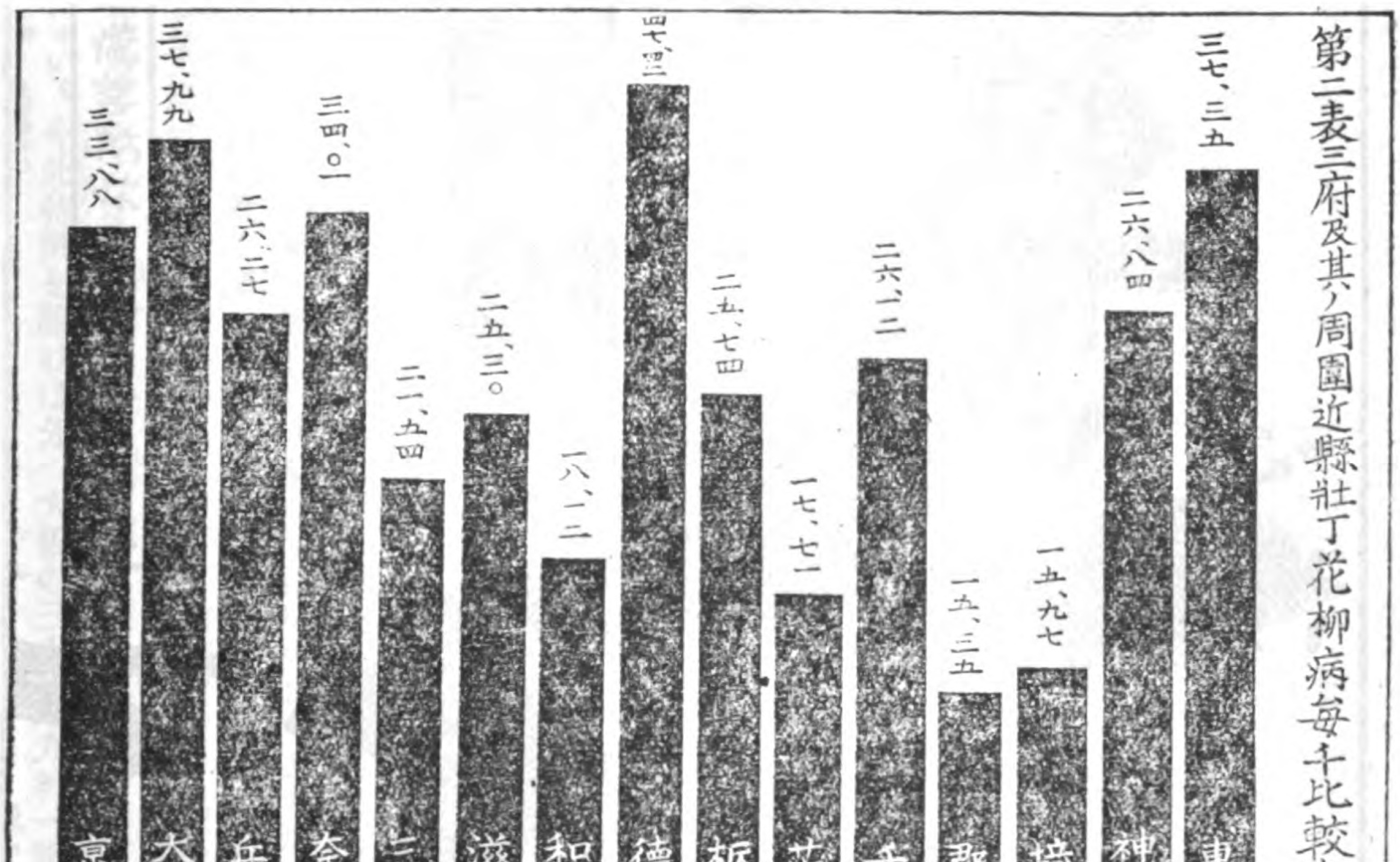
（五）　廢娼縣たる群馬和歌山の患者數を見よ

世人は動もすると公娼といふものがなかつたならば、却つて花柳病が殖えるであらうといふやうなことを、唯實際に計らず好い加減に想像してゐるものがあるが、前に掲げたる明治四十四年徵兵檢査における壯丁の花柳病患者府縣別表は明に彼等の妄を駁してゐる、第二表は、便宜上東京中心の各縣と京都大阪中心の各縣とを表に出したものであるが、此中最も多いのは德島縣の千人に就て四七、四二である。德島縣は甚だしく該病の割合が多い、是は何の爲であるか、私もまだ其原因に就て調べる暇が無かつたのであるけれども、或は賣笑婦が多い爲めではあるまいか、或は風俗が壞亂してゐる爲めであるかも知れない。何れにしても要するに善い事ではない。今此特例を除けば先づ大阪の三七、九九が一番である。次は東京の三七、三五それから奈良の三四、〇一京都の三三、


明治四十年徵兵花柳病府縣別每千比較表
9—20
20—30
30—40
40—50
50—65
朝鮮
北海道
臺灣
沖繩
秋田
山形
宮城
栃木
長野
岐阜
靜岡
愛媛
高知
德島
香川
熊本
宮崎
大分
福岡
佐賀
長崎
山口
島根
鳥取
石川
富山

第一表　徵兵花柳病府縣別比較表（明治四十四年）

府縣別	毎千人に就き患者數	府縣別	毎千人に就き患者數	府縣別	毎千人に就き患者數
清國	六六、六〇	神奈川	二六、八四	廣島	一八、〇七
愛媛	六三、三六	兵庫	二六、二七	青森	一八、〇七
高知	四九、二二	鳥取	二六、二二	愛知	一七、八三
德島	四七、四二	千葉	二六、一三	香川	一七、八一
長崎	四四、二四	靜岡	二六、〇八	茨城	一七、七一
朝鮮	四〇、七一	宮崎	二五、九八	樺太	一七、六二
關東州	三九、八九	岐阜	二五、八〇	宮城	一七、五五
佐賀	三八、八五	栃木	二五、七四	新潟	一七、四九
大阪	三七、九九	滋賀	二五、三〇	福井	一七、四四
東京	三七、三五	山口	二四、八五	山形	一六、四三
大分	三六、三三	福岡	二四、一八	埼玉	一五、九七
沖繩	三五、五二	石川	二一、九七	群馬	一五、三五
奈良	三四、〇一	三重	二一、五四	岩手	一三、九六
京都	三三、八八	富山	二一、三六	北海道	一三、四六
島根	三一、六九	鹿兒島	一九、八四	福島	一〇、五四
臺灣	三〇、五一	岡山	一八、八〇	山梨	九、三五
熊本	二九、〇九	長野	一八、三五		
秋田	二七、四六	和歌山	一八、一二	平均	二五、二五



八八、神奈川の二六、八四兵庫の二六、二七と云ふ風になつて居る。即ち大都會や殷賑なる港灣を有する府縣は（神奈川縣には横濱港があり、兵庫縣には神戸港がある）花柳病に罹る壯丁が多い事が分る。大都會地に於て花柳病が最も多いといふことは、これは西洋でも總て斯學者の意見が一致し、統計が一致してゐる所である。獨逸でも伯林が一番多いといふ樣な風に、大都會に最も花柳病が多い。これに反して山間僻陬の田舍に於ては隨つて花柳病が少い。然らば最も少いのは何處かといふと群馬縣が千人につき十五人三分五厘、これが東京中心の方で、大阪京都中心の方では和歌山縣の十八人一分二厘である。即ち東では東京を中心として其近傍なる群馬縣が最も少く、西では京阪を中心として其近傍なる和歌山が最も少いといふのは怎ういふ譯であるか、和歌山縣に於ては或る所は遊廓があるけれども、大體に於て先づ廢娼縣である。群馬縣は全く遊廓のない縣である。日本で遊廓のない縣は先づ此二縣であるが、此表によつて見ると、偶然であるか或は理窟であるか知らぬが、此の廢娼縣たる兩者が共に最も罹病者の少いといふ事實は、公娼がなかつたならば防波堤がないのと同樣、花柳病が社會に瀰蔓するといふ亂暴な說は、全く何等の根據なきものたる事が解る。否却つて公娼の設けなき地方が少いといふ事を知る事が出來る。

大都會は知識が進み、文明の程度が高いのに花柳病に罹るものが多いといふのは一見甚だしき矛盾であつて、誠に奇異なる現象の樣であるが、實は何の不思議もない。原因があつて結果がある即ち彼等は智慧こそ進み、理窟こそ分るにしても、肝腎の節操といふものが閑却せられて、誘惑に陷り易く、人間の守るべき道を失つた徒輩が多いために外ならぬのである。

玆に挿入したる圖は、日本全國の各府縣を花柳病の多寡を以て線別けしたのであつて、左斜線の部は千人に就て九人乃至二十人の花柳病患者がある事を示し、横線は千人に就て二十人乃至三十人、右斜線は三十人乃至四十人、縱線は四十人乃至五十人、黑は五十人乃至六十五人を示すのである。如此く該病蔓延の程度を地圖にして見ると、こゝに面白いのは眞黑になつてゐるのは愛媛縣のみである。これは地方のことでありながら愛媛縣が一番花柳病者が多い。其の次に多いのは即ち千人に就いて四十人乃至五十人で、これには德島縣、高知縣、長野縣、および朝鮮全體が這入つてゐる、朝鮮に花柳病の多いといふ事は、今日では日本の醫師が澤山行つておるから、始終吾等の耳にする所で、これは必ずしも文明開化と伴つた譯ではない。通則としては文明が進んでおればそれだけ花柳病の蔓延が酷いのであるが、此原則の外に又もう一つ附則といふ樣なものがある。それは必ずしも開化してゐなくても未開な國にしても一旦花柳病が或る原因によつて蔓延したならば、其處は未開の土地であるから、醫術開けず衞生行はれず花柳病に罹つても何病であるか診斷も付かず、又治す醫者もないから、こういふ場合には文明開化でなくても却つて未開であるだけに蔓延の程度が甚しいといふ事は容易に

考へられる事である。朝鮮あたりは、其部に屬しておるのである。此地圖によつてもやはり最も少い部分に和歌山縣群馬縣は屬してゐる。

（六） 廢娼後の取締に就て

尙一言論究を要するのは、公娼廢止後の問題である。花柳病の危險は公娼も私娼も大體に於て差はない。檢黴を勵行したからとて何の効力もないものであるが故に、花柳病に對する關係は、私娼と別段なる差を認める事が出來ない。然らば公娼の存在は何の意義をも見出す事が出來ないから、當然廢止しなければならぬ。それならば後はどうするつもりか序に尙一言卑見を附加へて置き度いと思ふ。

公娼を廢したならば殘る處は私娼即ち密娼婦ばかりになるそれは如何に處分するか、斯ういふ問題が起つて來る。私の考へる所では賣笑婦といふものは、此公娼密娼といふものを通じて二つに大別する事が出來る。受動的及自動的賣笑婦の二類即ち是れである。然るに公娼なるものは殆んど皆此受動的のもので。密娼には明かに此二類の別がある、其一つは受動的或は奴隸的密娼婦である。即ち隱れたる誘拐者を持ち、隱れたる抱主を有つて居つて、其密娼は全く他人の爲めに強制せられて他人の脅迫に依つて奴隸的に使はれて居るものである。これは公娼の塲合と略同一で全く受身的で、心ならずもさういふ苦役に從つておるのるである。これ等に對してはやはり公娼の場合と同じく即奴隸販賣、人權蹂躪であるから、法律の力警察の運用によつて、さういふものは調べ上げて、犯人を法律に照して嚴重に處分し、一方憐むべき女は是が救濟の途を講じてやらなければならぬ。然るに第二類のものは即ち自動的或は自主的密賣婦であつて、此者は他人よりの強制を受くることなく、自ら自己の利益の爲めに又は自己の快樂の爲めに自由意志を以て左樣な醜業を敢てして居るものである。即ち之は詰り他に例を取つて言つたならば男子の不品行者と同一であつて、別に他から脅迫さるゝ結果にあらずして、自己の意志の放埒から來つたものである。如斯密賣婦に對しては是は左樣な不品行を續行するといふ事は將來の爲めに、又社會風俗の爲めに甚だ宜しからざるものであるいふことを懇々説諭して、之を速に止めさせなければならぬ。又特別のそれ等處女の爲めに設けられたる救濟機關のやうなものに依つて是が救濟を計るべきである。併し女子の不品行に對しては是はやはり男子の不品行の如く、強て法律を以て干渉して處罰するといふ譯には行かない。だから充分德義的或は恩惠的に説諭し、之をどうかして救上げる處の救濟機關を設けるのが必要である。併し自主的の密賣婦と雖、其者が花柳病を身體に持つてゐるといふ事、それが爲めに多數の男子に傳播せしむるの事實があるか、或は懸念のある場合には、國家は公衆の危險を保護するといふ主義から即傳染病豫防法の主旨に隨つて密賣婦に干捗する事を得るのである。又干捗せざるべからざる譯になるのである。即自主的の密賣婦に對しては、其身體の健康なる間は國家は之に對して説諭して

改心を求め、或は種々の救濟機關の助力に待つべきであるが、若し密賣婦にして傳染病を有する時に於ては、茲に衞生警察的の監視權を國家は行使することが出來る。其衞生警察的の監視權といふものは、例へば若し茲に一種の婦人があつて、それが多數の男子と怪しむべき交際を爲すものであるといふことを認めた場合には、警察は其婦人よりして必要と認めたる都度健康診斷書を徵するの權能がある。健康診斷書は一定の資格ある所の醫者の認めたるものでなくてはならぬ。醫者は如斯婦人の需めに應じて、成規の診斷を行ひ、健康なる時には健康證明書を與へ、傳染の危險ある場合には其旨を記したる診斷書を與へる、且又治療を行ひ傳染危險のなくなる迄其治療をなさしむる事にしなければならぬ。若し當人が治療を怠り放任するといふやうな擧動ある場合には、警察は始めて茲に矢張り傳染病豫防の規則の主義によつて强制的に病院に拘留するとか、或は强制的に治療するとかいふ手段を執る場合が出來て來るのである。若し溫和しく法規の命ずる所に隨つて他人に病毒を傳染せしめないやうにし、注意して治療を加へてゐるやうな順良な密娼婦であつたならば、それは其好む處の醫師について治療をさせるといふやうな事にしたらばよからうと思ふ。獨逸のクローマイエルや其他の人は斯樣な意見である。即ち權利上干涉し得る程度迄は干涉するけれども、權利上餘り干涉する事の面白くない程度に於ては、之は他に德義の方面より救濟法を講ずるより外はないのであつて、之を要するに私は衞生上より全く公娼存在の意義を認めざる者である。

附言　本稿を草するに當り、貴重の材料となりたる衞兵花柳病府縣別表は第十六師團軍醫部長中川十全君の好意に依りて、其筋の調製にかゝるものを借覧拔抽することを得たるものである。茲に謹んで同君の好意を感謝す。

同盟國の應援者

廓清會理事
早稻田大學教授　內ヶ崎作三郎

（グレゴリー氏送別會に於ける演說筆記なり、記者）

諸君今夜の集會は公娼廢止の演說會であるが、同時に昨年十月以來遙々英國より吾々と主義を同じふする者の代表者として、日本に渡來し、吾々の事業を助けられたモーリス、グレゴリー君の送別を兼ねて居る演說會である。吾々は同君が中間に立つて吾々を鼓舞し、吾々を指導せしめた義俠的、獻

身的努力に對し大なる感謝を表するものである。

抑現下の大問題は何であるかといふと、即ち國際的の問題である。國際平和の問題である。今日の如く世界各國の人々が諸方面に散在して居る事はない。歴史あつて以來今日の如く交通の機關發達し、世界の國々の人々が到る所に集合して交際して居る時代はないのである。これが爲に一方から見れば各國人若しくは各人種は互に和解するやうになつた。同時に様々の人種、種々の民族が一緒に集つて居る處から色々な面倒も生じて來るのである。たとへば亞米利加合衆國の如き、一ケ所に世界中の人々が集つて居るからして和睦する機會も多いが、相反撥する機會も亦從つて多い。さうして、それには元より各々原因があるから此反撥すべき原因を段々調べて之を取り除き和解せしむるのは吾々宗教家、教育家、若くは社會教育家の義務であるのみならす、あらゆる國民の智識ある階級の責務である。而して今日如何なる運動が此和解の目的に向つて、働かれつゝあるかといへば即ち、クエーカーの運動である。クエーカーは由來平和主義を極端に主張した宗派である。至る所に傳道師を派して、此の主義を宣傳せしめつゝある。

今一つの運動は言語學の上から來る。所謂エスペラント語を以て世界共通の言語としやうといふのだ。是が果して何時の時代に實行せられ得るや、否やを知らぬ。併し各國民が共通の言語を以て、それに依つて意思を發表することが出來たなら、人文史上の一大貢獻と言はなければならぬ。

次の運動は學術的の運動である。宗教的或は科學的哲學的の會合が屢々國際的に開かるゝやうになつた。殊に國際的平和會合は頻々と歐羅巴に行はれつゝある。又日本に於ても數年前萬國青年會の大會が開かれたのは諸君の記憶に新なる所であらう。斯の如く種々な世界的の運動が起つて、世界の平和と云ふものを増進しつゝあるのである。故に斯る時代に於て吾々の同盟國たる英國より代表者が遙々渡來し、而して日本に於ける矯風事業たる廢娼運動の爲に盡力せられたる事は我國に取つて非常に喜ぶべき事柄であると思ふ。一體外交なるものは決して政府にのみ任して置ていゝものではない。外交は實に國民と國民とが眞心を以て交際しなければならぬ。然るに今日はどうであらうか、政府萬能の時代で。政府が何もかも出來るものと思つてゐる。併し乍ら我政府の外交が拙劣なることは度々の失敗に於て明である。即ち日本將來の大問題たる國際的關係を圓滿に解決するには、個人〳〵が其赤心を吐露して肝膽相照し、温き眞情を以て交際をなすにある。かくて政府の足らざるを補つて世界の平和國民の利福を計らなければならぬ。我等は此意味に於ても我同盟國の崇高な男女の一群の矯風團體を代表して我邦に來られたモーリス、グレゴリー君を歡迎感謝してゐるものであるが、自分は殊に同君の名がグレゴリーといふのに興趣を感ずるのである。

今より千四百年前羅馬にグレゴリー大王と云ふ羅馬法王があつた。此の法王が一日羅馬の街頭を散歩してゐる時、非常に奇麗なる一少年を見た。法王は此美少年に何所から來たの

であるかと聞いたら、瘴煙蠻雨の英蘭より買はれて來た奴隷であると答へた。そこで法王は、斯くの如き美少年の居る所は必ずエンゼルの國であらう。天女棲む島であらう。斯くの如き國には宜敷基督教を宣傳せしめなければならぬと云ふので、グレゴリー大王はオーガスチンと云ふ宣教師を羅馬より傳道の爲めに派遣した。此大王は中々偉かつたけれども自分自らは一度も出馬しない。自分は羅馬に居座つたきりでオーガスチン一行をして傳道せしめたのである。然るに此所に御出でのグレゴリー君は自分で出馬されたのである。吾が同盟國民の代表者として、日本に御出でになつて吾々の事業を助けられたのである。之れ實に感謝せざるを得ぬことではないか。斯くの如くに外國の人迄が日本の矯風事業を助けて下さると云ふのに吾々日本人はどうしたらいゝのであらうか、敢て說明を加ふるの必要はない。

吾々は種々の點に於て吾々の祖先の偉大なることを知るものである。然るに玆に道德的の方面に於ては必ずしも常に偉大であつたと斷言することが出來ないのは、遺憾此上もなき事である。一體日本人の身體は薄弱である、是れ何故であるか、一の理由は男女間の道德が完全ならざる所から來る。日本人は男女間の情欲を制するとの出來ない國民である、放縱にして淫逸なる結果は生れ來る國民が健全なる體格を有し得べき道理はない。文朙とは何であるか、一言以て之を掩へば或意味に於て文明とは情欲の制止の賜であると謂へる。即ち情欲を身體の外に發せずして、中に收め、精力を貯藏して以て、學術の探究に或ひは政治的問題に用ゆるのである。今日の日本に何故に大なる雄辯はないか。今日の政治家の中に何故に大人物は出ないか。今日の政治家の大多數は道樂者である。常に道樂のために精力を消耗して居る。今日の日本には何故に大著述はないか。大學者はないか、日本の學者の多くは決して品行方正なりとは言へない。道樂者の學者には勿論大著述は出來ないのである。大發明家にしてもさうである。日本の機械と云ふものは大抵西洋から買つて來たものだ。由來日本人は發明的頭腦に乏しく。たまさかあつても某々飛行家の如き皆道樂のために失敗して仕舞ふこれでは決して偉大なる民族となりやう筈はない。第一流の民族となることは到底覺束ない。

吾々は此際に於て廢娼運動をやつて居る。之には大なる意味のある事である。此問題の中には色々の問題が籠つて居るが、先づ第一に吾々は婦人と云ふものを、思ふと同樣に尊敬すべきものと云ふ思想を充分に國民に植ゑ付けねばならぬ。男子の放縱淫逸は女子の無自覺無氣力も一面の因由であるが、弱肉强食時代の遺風より多年婦人を以て男子の從屬とし、妻とは信用のおける下女の謂也といふが如き驚くべき定義を下し、女子は男子に愛せられむが爲に存し、玩弄せられむが爲に生せしもの丶如く思惟し來りたる結果にして、醜陋なる公娼制度の如きは全く此思想の產物に外ならぬ。吾々は日本文明の爲に、此蠻俗を破り、男女平等の思想を導き健全なる文明の理想を樹立しなければならぬ。

論議

輿論の聲高まる（三）

公娼廢止の聲

京都日出新聞

（第四）▲衛生上の觀察（下）

萬國廢娼同盟會英國支部幹事モリース、グレゴリー氏は曰く、英國は一八六九年國内の重なる陸海軍駐在地十八個所に公娼を設置すると云ふことを議會で決議し此場所を中心とし附近十五哩以内の距離を以て劃したる區域内に於て公娼の存置を許可したのである。而して此制度によつて密娼たると否とを問はず、總て醜業を營む嫌疑のある婦女は之に公娼同樣嚴重な取締りを行ふことゝした。其の結果意外にも無垢の少女が醜業婦の嫌疑を受け、關係醫師の外科的檢査に附せらるゝの失態を演ずるに至つたので、國民殊に婦人の側から非常な物議が起り、一八八六年に至り僅かに十七年間の經驗のみで遂に議會に於て此の制度を廢止するに至つたのである。英國は歐洲に於て此制度を採用したる最後の國であつて、而も其の廢止は先登第一であつたのである。然るに之が廢止に當つて非常な反對論が起つた、其反對論の骨子は花柳病は此公娼制度があつてさへ斯く大なる蔓延を來すのであるから、廢止後においては密娼が増えて更らに大なる速度を以て増加するに至るであらう。斯くして全英國は花柳病を以て滿たされ、遂には陸海軍人を殺し、尙進んでは全英帝國を滅亡せしむるに至るであらうと云ふので、今日日本人の多くが懷いて居る衛生上の杞憂と同じであつた。然るに廢止の結果は實に此杞憂と全く正反對の事實が現はれて來たのである。

即はち英蘭及ウエールスの全人口中花柳病に罹つて死んだ者の數は、一八八三年から一八八五年まで公娼存置當時に於ては、生存者百萬人につき九十八人乃至九十七人であつたが、廢止後年々減じて來て最近には五十八人となり殆んど二分の一の少數となつた、又花柳病の遺傳を受けて死んだ小兒の數も三十年前の遊廓設置當時には生存者百萬人中二百二十八人乃至二百三十五人に達したが廢止後は段々少くなつて最近百三十五人となつた、之も約二分の一に減つた割合である。

又現今の兵隊檢査は以前より非常に嚴格となれるに拘はらず、花柳病に因る兵士不合格者の數は受檢壯丁一萬人中遊廓の在つた當時は六十八人乃至九十八人に達して居つたが、廢止後の今日は著しく減つて最近十六人乃至十八人即はち以前の六分の一と云ふ僅かな數に落ちて來た、又陸軍軍人で花柳病の爲め入院して居る患者數は兵士一千人中存娼時代には二

百六十八人乃至二百七十五人と云ふ多數であつたが、廢娼後は漸次少くなつて最近六十六人即ち前の四分の一に減つて來た。海軍々人も存娼當時の花柳病入院患者は兵士千人中二百人內外であつたが廢止後は百人內外即はち二分の一に減つて來た。斯くの如く實際の統計上において存娼當時甚だしく蔓延して居つた花柳病は廢娼後漸次減退し公娼なるものが衛生上何等の益なきのみならず、甚だしき害毒を流して居るものであると云ふ事を證據立て得るのである。遠くて人種の異つた英國の例などは當てにならぬと云ふ人があるならば、記者は最も手近い京都市の例を擧げて見やう。昨年十二月記者が八阪病院を參觀した時、中野院長は市內八遊廓の娼妓中花柳病に罹つて入院して居る者を除き、現在健康者と認めて營業をなしつゝある各遊廓の娼妓について悉く精密なる檢査を遂げた處其の結果は實に左表の如く恐るべき成績を示したのである。

遊廓名	檢査娼妓數	有毒娼妓數
七條新地	六六三	六〇〇
宮川町	二一八	一八五
島原	一四二	一三五
祇園甲部	九九	七一
祇園乙部	一八四	一七五
先斗町	三二	二二
五番町	二四九	二二〇
上七軒	一三	一二
合計	一五九〇	一四一〇

即ち千五百九十人の娼妓中檢査の結果有毒と認められたものが千四百十人、中九百三十人は濃球のある者、四百八十人は淋菌を有つて居る者で、健全な生殖器を有つて居る者は僅かに殘りの百八十人全體の一割強に過ぎなかつたのである。之によつて推して見ても市內八遊廓二千の娼妓中純健康體と認むべき者は一割以上二割とはない位なので、大部分の八割內外と云ふ者は何れも病毒を有し若くは病毒を作るべき種菌を有しながら營業をなし健康體と詐つて客に接し盛んに花柳病の蔓延に努めて居る者のみなのである。市內娼妓の健康を保證し花柳病豫防の責任の衝に當つて居る八阪病院長自身が市內の娼妓八割以上は何れも有病者であるとの宣告を與へて居るのに對し、營業して居る娼妓は皆檢査濟だから大丈夫だなど丶表面の形式を過信して遊廓に足を運ぶ馬鹿者ありとすれば、是れ即はち自業自得、飛んで火に入る夏の虫と同じ運命に陷ゐらざるを得ないとなるのである。記者は玆に至つて前回述べた松浦博士の現代の醫學上の知識經濟力の程度においては公娼を以て花柳病を豫防することが出來ないと斷定せられたことの益々事實と符合するを思ひ同時に衛生醫學上の見地より全く有害無益と認められた公娼制度を此上存續せしめて置くことの如何に危險にして害毒を增大ならしむるものなるかを想ひ慄然として廢娼の急務を叫ばずには居られないのである。

（第　五）

▲政治上の觀察

公娼を廢止したとて賣淫婦の種は絕へるものでない。賣淫

が事實として社會に存在し之が撲滅は言ふべくして行ひ易からざる問題である以上到底之は認識する外に致方はない。公認するとしても各所に散在して居つては風俗壞亂の恐れがあるから之を一箇所に纏めて遊廓制度を設くるのが適當であると、恁ふ云ふのが從來多くの政治家又は社會改良家が唱て來た一般論で此の理由から今日の遊廓制度なるものも發達し來つたのに相違ない。而し最近に於ける政治家及び學者の所說は遊廓の實際に就て研究した結果以前とは全く變つて來たのである。即ち遊廓と云ふ者が公々然と看板を揭げて許されてあるが爲めに何も知らない初心の青年までが不圖した機會から玆に足を踏み込むやうになり、所謂墮落の導火線が遊廓によつて發せられて天下の青年は益々其の深淵へ落ち込むやうになる。人倫を紊り不道德を行ふ事を公許し不倫不德の專門研究所の如き觀ある遊廓は種種雜多な罪惡の製造所であつて天下の罪人は多く其の源を此處に發するか又は此處に於て培ひ養はれたものである。して見ると遊廓あるが爲めに風俗壞亂と云ふことは益々甚だしくなつて居るので、斯くの如き制度を國家が公認するのは國家自ら社會の風俗を紊して居るやうなものである。就ては初期の目的は全然零になつた譯であるから斷然之を廢止するか、又は廢止と同樣の運命に陷れるより外に途がないと云ふ結論になつて居るのである。浮田法學博士なども夙に此說に贊成の旨を聲言して居るが、二日夜青年會館で服部代議士の發表した所說は尙一層痛切に政治家の立場を語り明して居る。氏は曰ふ公娼存置遊廓設置は惡い事ではあるが、萬止むを得ぬから一時試驗的に行つて居ると云ふならば、政治上法律上に於ては飽までも之を消極的に取扱ひ單に其の存在を認むる丈けの程度に止めて苟且にも之を保護し之を助長せしむるやうなことがあつてはいかぬ。況んや之を奬勵擴張するやうなことがあつては尙更ら可くない話である。故に予は遊廓を直ちに廢止することが出來ぬならばせめては現在の遊廓から此の保護助長若くは奬勵の分子を取除きたいと思ふ。即ち之をなすには遊廓の場所及び家屋に制限を加へ繁華な人の眼に着き易い場所や宏壯な大厦高樓などは斷じて許さぬやうになし、生活上に便利な公共的機關電燈瓦斯電話の如きは一切之を供給しないやうにするのが第一である。政治の要諦は國家全體の人民を土臺として其の一人每の生命と財産を保護し偏頗なく平等に　陛下の恩澤に浴せしめ得るの點にあるので、一部の移民を犧牲にして外交の圓滿ならんことを期し弱い婦人を犧牲にして男子の滿足を買ふの具たらしむるが如きは決して正當なる政治の遣り方ではないのである。公娼は道德上の罪人ではあるが政治上之を許して居るのであるから法の罪人ではない。彼等は全く國の法律によつて保護されて居るやうな形になつて居るのであるから、娼妓始め貸座敷業者等もヘン憚りながら私共は鑑札を持つて居ります而して高い稅金を拂つて居りますと恬として愧ざるのみか反つて鼻を高ふして威張り倒して居る勢ひである、然れども思へ翌日からでも公娼制度を廢止した以上は彼等は明かに天下の罪人である。密淫賣婦人身賣買者と同一の

罪に問はるべきものである、斯くの如き罪人の手を藉り之に税金を出さしめて國家の一部を支へしめ彼等の憲法上保障せられた大切の參政權を與へ、或は市町村自治の參政權を與へて政治の一部分にても參與せしむるが如きは以ての外の事である帝國の國家は正に帝國の良民に依つて支ふべきものである。彼等の營んで居る事を一種の營業と見做し正當の所得と認定して之に良民と同じ公課を付するなどは恰も賭博をやる者から税金を取り立て泥棒の所得の頭を刎ねて國家の收入となさんとするが如く初めから誤まり切つた遣方なのである。宜敷彼等貸座敷業者たるものには一切參政權を與へざることし其所得に對して義務を負はしむるならば税金を課せずして罰金を徴することとすべく家屋を制限し文明の利器を給與せず穢屋陋巷に於て營業せしめ非人扱として全く普通の社會から懸け離れた分子とすることが肝要である、斯くしても尚營業を繼續する貸座敷業者があり斯る場所に行つて遊興する馬鹿者があるであらうか恐らく此社會制裁に懲りて自然に衰退し遂には廢滅するに至るであらう。斯くなれば期せずして吾人の目的は達せられる譯なのである云々と。又東京醫科大學教授の片山醫學博士なども場所家屋の制限を八釜しく唱へて居る一人で、暗黑面の醜物は飽までも暗黑面に葬り是等の醜業窟は普通の往來から人目に立たない裏路次の樣な所に設け、此處へ用事のある者の外は其の存在を知らさない位にし大廈高樓は斷じて許可せぬ方針を採り、周圍には煉瓦か何かで監獄式の高壁を設けて普通良民の住宅と隔離せしむるやうに爲ねばならぬと論じて居る。

（第　六）

▲結論—私娼問題

公娼の全廢を必要とする理由は各方面から見て殆んど數限ぎりもない程であるが之を要するに

一、人道の上より觀て一日も其存在を許容すべからざる世界最惡最醜の奴隷制度である事

二、風教の上より觀て善良なる風俗を害する最も甚だしき惡制度である事

三、國民の健康を危ふくする惡病傳播の奇怪なる制度で其弊の如きは有名無實人を誤るのみにて一向保護の効なきものである

四、多くの金錢を濫費せしめ、人を遊惰放逸に陷らしむる弊にて國家の繁榮を助けない許りか正反對に人民の利益を毀損るものである事

五、國民の品位を傷け家庭の平和を棄り弱者を愚弄し女性を侮辱する惡制度である事

六　世界の各國に對しても面目なき亂暴な制度で既に多くの外國人間に「日本は世界の妓樓國」の感を與へ居り海外に於ける日本醜業婦は又世界の最多數に上り所謂國辱を重ぬるものである事

等が重な通有の原因であることは疑ふべくもない、社會改良家として知らるゝ救世軍書記長官山室軍平氏の如き大阪難波新地遊廓廢止論の前提として夙に是れ等の要點を擧げて警告を與へて居るのである。其處で公娼の廢止は最早論ずる餘地のない程明らかな問題であるとして公娼廢止後に於て私娼即ち密淫賣婦が激增するやうな恐れはあるまいか、幷して其の社會に流す害毒は寧ろ公娼以上ではあるまいか、恁ふ云ふ說を立て懸念を挾んで以て公娼制度の存續を誤識せんとする人

がある、一應無理からぬことのやうではあるが、而し私娼なるものゝ性質を研究し篤と其の利害を判斷するに於ては到底斯る議論を以て公娼存置を是認することの出來ないと云ふ譯を覺らざるを得ないのである、浮田法學博士は曾て此點に關し公娼と私娼の利害と題して所信を發表した事がある、其の一節に曰く

公娼の制度に比較すれば私娼の方が餘程回復の望みがある第一道德上において然りである、一度公然たる娼妓となつた所の者は自分一人で足を洗ふと云ふことは殆んど出來ない境遇になつて居るが私娼であると此望みが充分にある、即ち萬止を得ざる事情があつて一時困難を支へる爲めに婦人が斯かる道に陷つたとしても、後ちに自ら悔て改め自分一人の決心次第で貞節を全ふする婦人となることが容易に出來るのである。第二は衛生上黴毒の蔓延を防ぐ望みがある、私娼で秘密に淫賣して居る所の婦人は所謂自主自衛は飽までも自分によつて支へなければならぬから公娼に比して遙かに自衛の念が高い、而して公娼の如く抱主なるものがあつて強壓的に蹂躪して厭でも應でも賣淫に從はしめ客でさへあれば休みッこなしに勸めさせねばならぬなど云ふ奴隷の狀態にあつて殆んど家畜の如き取扱ひをされて居る者とは全く事情を異にし、私娼は餘程自由の人間に近く勝手に休む事が出來る厭な男には接しないやうにする事も出來る、從つて黴毒に罹らないやう衛生に注意し若し罹つても力を盡くして全治を圖ることも出來る、黴毒豫防の點から云つても風俗壞亂の點から云つても私娼制度の方が遙かに害毒が少なく弊害を滅し得るは明らかな話である。

之によつて見ても公娼と私娼との利害は明らかであつて現に倫敦や巴里に於ける密淫賣婦の如き最も衛生上の觀念が發達し、自己の身體を非常に大切にするの餘り相手の男子に對し自ら嚴密な檢査を行ひ、若し少しでも花柳病を有つて居る徵證でもあつたら斷然之を刎ね付け或は感染せぬ丈けの相當の豫防法を講ずると云ふ位ひであるとの事歐米の各都市に隨分と密淫賣婦の數が多いに拘はらず割合に花柳病の蔓延が少なく前にも述べた通り英國では公娼の在つた時代に比し社會何れの階級に於ても花柳病患者は著しく減少した事實が擧つて居るのである。左は云へ吾人は私娼は何程發生しても構はぬ私娼なれば全く放任して遣らせ放題に遣らせると云ふ其んな亂暴な考へは少しもないのである。松浦醫學博士は

自動的自主的淫賣婦の自己は利益の爲め又は自己の快樂の爲め自由の意思によつて行はるゝもので多く私娼の部類に屬して居る之は男子の放蕩者と同じく自己の放埒自己の利益の爲め勝手に恁ふ云ふ事をやつて居るのであるから、法律上干涉を加へ之を止めさせると云ふ譯には行かないが、救濟感化の機關を設けて德義上恩惠上之を說き自ら改悛せしむるやうに仕向るとは肝要である、而し此密淫賣婦が傳染的花柳病に罹て居る場合は國家は傳染病豫防法の主旨に從ひ何時にても衛生警察の監督權を行使して身體檢査を行ひ傳染危險の恐れがありと認めた時には之に治療を命じ本人が治療を放任する場合に行政的に此治療を強制し其醜行を停止せしむる程度に監督を行ふの必要がある。

と云ふのであるが、服部代議士は今少しく手嚴しひ處分を加ふるの必要ありとて更に左の如く論じた

公娼廢止後に彼れ等が皆社會へ出て來て私娼が一時に激增したとて何等心配することはない、自由に開放せられ普通の社會に散在して居る婦人ならば救世軍が突進して彼れ等を救ふことも自由である、志ある婦人が行つて之を悔ひ改めしむべく說き聞かせることも容易である、斯くして公娼には容易に行ひ得なかつた一般社會の感化宗教道德の力なるものを彼れ等の身上に推し及ぼすとが出來るのである。道德的に救濟した上尚更に私娼が出來るとすれば未成年者ならば後に恢復の望みがあるものとして感化保護院のやうな所に收容し、未丁年以上の者は罰金を徵收し其れでも尚改めず二回以上に及んだ時には暫

察の名簿に不良なる女として登録し、之を或一定の場所に詰込んで非人扱ひとし良家の子女と全く隔離せしむるやうにするのである、詰り泥棒は公許してないが其種は絶へぬから囚人として監獄に送ると同じく淫賣も斷じて公許すべきものでない、而し泥棒と同じく其跡は絶えないから、私娼即ち非人と見做して囚人同様監獄式の場所へ投げ込んで了ふことにすればよいのである。英國でも公娼廢止善後策に就ては種々研究せられ私娼などになつて墮落する婦人を救ふ爲めに『若き婦人の友』と云ふ大團體を作り貴婦人などが卒先して其衝に當り、或は列國の間に醜業を營ましむる目的を以て婦人を賣買するを禁止する條約を締結し、或は人類の道德上の標準を高める運動を行ひ或は此罪惡の爲めに花柳病に罹つた者を無料で親切に取扱ふ制度を創立して全快後正業に導くやうにする等、種々の方法が行はれ着々効果を收めつゝある事はグレゴリー氏の親しく語つた所である。要するに以上の諸説を綜合して私娼なるものは之を改悔せしめ之を取締るの途は公娼制度よりも遙かに有効に行ひ得られ、衞生上、風紀上何れの點から見ても其の害を少くすることが出來ると云ふ結論になるのであつて、又實際公娼が無くなつたからとてソウ案じる程に私娼が增えるものでもない。現在でも遊廓のある所に密淫賣が多く遊廓のない所には却つて少ないと云ふ結果を示して居る事は、各地にある多くの實例によつて證明し得らるゝのである。（完結）

社會良心の痲痺

やまと新聞

嘗て青森縣より選出せられたる衆議院議員中、公然唱ふるを憚るべき營業に從事したる者あり。當時社會の一部には之を非難する者ありしと雖も、法定條件に缺ぐる所なきが爲に其當選は動かす可からざることゝ爲り、其人亦恬として省る所なかりき。今や府下に前者同様の營業を爲す者の家長、町長に當選したるありて府知事之を認可して怪ます。一宗教家物に之を以て風教上有害なりと爲し、獨力之を攻擊して餘す所なし。其意其人をして辭職せしむる乎、將た其家族の營業を改むる乎、二者其一を擇ばんことを勸告して已まざるにあり。然も府知事未た省せず、當人亦未だ省せず。此の如くにして過ぎ行くときは、其地の小學校生徒は斯る町長の口より訓辭或は訓諭を聞くの機會あるに至べろし。法律の眼中よりすれば毫も何等奇異とすべき事に非ず。然れども道德上よりして、此の如きは果して恕すべき所以なる乎、法律上の制裁なきに藉口して罪惡を敢てする者の非なるは論なきが如く、正邪曲直の觀念顚倒せざる限、此の如きは道德上一日も寬假し難き所にあらずや。若し法律に於て之を如何ともす可らずとせば、之に社會制裁を加ふるは即ち法律上の缺典を補ふ所以。而して此場合に於ける社會制裁とは輿論の喚起なり。輿論の遂行なり。反省せざる者をして反省せしめ。輿論を無視する者をして輿論の威力を覺知せしむること是れなり。內務省は社會道德の振起を欲して宗教家の會同をすら企圖せり。此の如き實物敎育に逢着して之を雲烟過眼視するは迂も亦太甚しからずや。宜く此の如きを捉へて、當局亦道德尊重の意思十分なるを示し、以て社會良心を刺戟して、其社會道德と共に生くべきを知らしむべきなり。是れ些事に似て些事に非ず。之に依りて現代の社會良心を痲痺より救ふは一大偉績にあらずや。（庸堂學人）

火は廓淸なり

帝國新聞

昨年四月、業火北東京を焦土と化してより、水若巽廓を嘗め、更に本年に及びては祝融南大阪に禍して間もなく、今や再び巽廓の燃滅を見る。即ち天災地妖の起る毎に、必ず遊樂醜穢の巷を包容して、恰も天意の懲罰を意味さるもの丶如きあり。昔バビロンを亡し、ソドム、ゴモラを燒きたる天火の再び天の一角に燃えて、罪業の巷を燒盡し去らんとするが如き、恰も群鳥火を啄んで、縱横に亂雲の間を翔るに似たり。

それ火は鼎沸を意味し、革新を意味し、破壞を意味す、數年來屢々祝融氏の災を受けて而も其都度必ず穢土歡樂の巷に禍するは、之を以て假りに偶然の暗合となすも、尙世道日に衰微し、人心日に頹敗しつ丶ある今日、天火屢々此等の巷を脅すの決して偶然ならざるを思はしめざるに非ず。科學萬能の現代に於て、神秘を記き、奇蹟を論ずるは稍や時世に後れたるの譏ありとせんも、人事の不可解なるが如く、天道亦神秘不可解なるもの少からず、革新を意味し、破壞を意味する離火が、頻りに歡樂罪業の巷に禍するを見るもの、誰れか之を以て風敎廓淸の刺戟ならずと云を得んや。傳へ云ふ、嘗てソドム、ゴモラの亡びんとするや、神、義人に告げて曰く、若し此地三人の義人あらば、敢て之を亡すことなからんと、而も腐蝕淫靡せるドム、ゴモラの人心は僅かに一人の義人を容れて、三人の義人を容れず、玆に於て、神の怒り忽ち其民の上に及びて、飈風猛火、一日にして焦土と化せしむ。舊約の此一插話を以て、之れを無稽の傳說と排すること勿れ、天を恐れ、神を敬ふ所、民自ら純朴の風を爲し、道自ら完きを得るを知らずや。

近時遊廓問題到處に喧しく、其地域を市の邊僻に限りて彼等を跼蹐の天地に追はざるべからずと爲すもの、獨り風敎上の理由によりてのみ然りとなさず。敬虔眞摯の精神を缺ぎて、只管淫靡頹敗せる此等境域の人心はまた、自ら禍を招くに於て多くの不用意を存す。現に吉原の大火と云ひ、難波の大火と云ひ、將た又洲崎の大火に見るも、火を失したるもの皆これ廓內に存するに徵すれば、禍の自己が裳に發せるを拒む能はず、知らずこれ、此等淫靡頹敗の徒の不注意に依りて生じたる災の餘波を受たるもの眞に憐むべく、即ち此徒が不用意の餘波を他に及ぼさざる注意よりするも、遊廓を人家櫛比の華巷より離れしむるは保安の一大急務たり、吾人は此意味に於ても亦、遊廓移轉を疑問以上の問題となし當局者の英斷速かに其實施を見んことを急務となす。

雜誌の雜誌



。噫本多氏

●本多庸一氏逝く

東京朝日新聞

日本美以教會監督本多庸一氏が長崎に於て逝去せる事は、既記の如くなるが、臨終前後の模樣及氏の經歷逸話等を記せば左の如し。

▲途中の發病　家人の語る所に依れば、氏は美以教會の任務を帶び本月八日夫人を伴ひ京都に赴き、明治學院總理井深梶之助氏其他の教友と共に八九兩日京都に催されたる全國教會同盟會の大會に臨みて傳道を爲し、直に岡山に向ひたるに途上在神戶なる宣教師ターナー師の訃に接したるにぞ、氏は夫人を先立たしめ十一日自分だけ神戶に引返して夕師の葬儀に參列し、少しく遲れて十三日長崎に到着したるが、此時既に身體に異狀ありしものゝ如く氣分勝れず、剩つさへ發熱甚だしかりしにも拘らず、平生氣丈にして且教務に熱心なる氏は一向平氣なる如く醫師の診斷をも請はず、强て豫定の通り十四日より年會に出席して會務を見たるが、遂に堪へ難き迄に病熱募りたるより同十七日の說教はハリス監督に依賴して、旅館なる同市平戶町四番地池田屋に引籠りたり。

▲最後の按手禮　然れど同日午後は十四名の青年傳道師候補者の爲に按手禮と稱ふる儀式を行ふ豫定となり居り、最も重大なる監督の任務として他人の代理を許さゞるより、氏は卅九度以上の熱度を抑して教會に赴き、一人々々儀式を施したるが、遂には其さへ叶はずなりて再び旅宿に引取り、後二日池田屋旅館なる氏の枕頭に各委員參集し、氏を座長として重要なる會議を開きたるが是等の爲幾度か無理を重ねたる事とて病勢頓に重り行き二十二日終に縣立病院に入院するに至れるが診斷の結果病症は惡性の腸窒扶斯と決定し激烈なる腸出血を爲し、次で心臟病さへ併發したり。

▲遺族と葬儀　長男二郞氏(三十四)は法學士にして現に北海道小樽商業會議所書記長を奉職し、次男愛雄氏(二十四)は仙臺第二高等學校在學中なりしが、病氣の爲め目下歸省中又長女まつ子(三十)は橫濱美以教會牧師宮野原信次郞氏夫人たり。殊に三男二女あり。又同胞は男女十人あり多くは鄕里弘前にあり。東京に在住せるは令弟齋氏が市外西大久保にて同く牧師を爲し居のみなるも、兄弟姉妹の子女を合すれば六十餘人の甥姪ありとぞ。危篤の報同家に達するや、二十五日午後十時三十分列車にて前記女婿宮野原氏は三男直哉氏を伴ひて長崎に向ひ、又二十四日午後八時半日本美以教會傳道局長鵜崎庚午郞氏は同教會を代表して見舞として同じく長崎に赴きたり。葬儀は昨日午後四時令嗣二郞氏の歸京を待ち受け、京橋銀座の美以教會館に於て教會委員協議會を開きたるが、多分同教會及青山學院共同にて來月四日頃執行する事となるべし。

▲神の攝理に感ず

▲初て橫濱に學ぶ　氏は青森縣の人舊弘

前藩士本多東作の長男にして、嚴父は藩の御用達を勤め俸祿三百石を食み、弘前下白銀町十五番地に住り、氏明治初年横濱に出で宣教師ブラオン氏に就いて神學を學び、同五年洗禮を受たり。是れ實に氏が今日ある基にして、後、仙臺弘前に傳道に從ひ菊池九郎氏と協力して東奧義塾を創立し、育英事業に從事せるが、當時の同校教師ジョン、エンク氏との關係より美以に改宗する事となれり後青山學院の設立せらるゝや氏は推されて院長となり。去明治四十年に至る迄多年其職に在り。軈て三派合同を畫し日本美以の教會成立するに至り、最初の監督となり、次で學院長を辭せり。

▲天國への土產　氏は海外に渡航したる事前後十數回に及び、來五月米國ミネアポリス市に開催すべき美以教會總會に我國の同教會を代表して參列の爲め四月十七日橫濱を出帆の大阪商船に便乘渡米する筈にて、既に夫れ〳〵準備を整へ、今回の米國行なば天國への好き土產なりとて非常に悅び居たるに、夫れさへ叶はず身まかりしとて家人は今更悲歎の淚に暮れ居たり。

▲在米中の奇蹟　氏が明治十九年青山學院長として渡米し、紐育府ドルー神學校に在學せるが、元來政治家的資質を有し是れまで隨分政界にも奔走したる經歷あり。同校在學中も半ば政治學を修め居たる位なるが、明治二十二三年頃國會開設間際に至り、兼て緣故ある故近衞篤麿公より強て議員に打つて出る樣遙に電報にて勸告を受けたるより、多少其邊の下心ありたる氏は、政治と宗教と何れに依りて世に立つべきかと頗る煩悶したるが、或日誤つて汽車に轢かれあはや一命も無きものと思ひきや、不思議にも身には傷一つ負はず全く命拾ひを爲したるより、氏は是れ偏に神の攝理に外ならじとて痛く感激し、斷然近衞公の勸告を斥け、遂に神の恩寵に報いん爲め教役者として全生涯を捧げんとの決心を固めたりと云ふ

歡樂忽ち悲哀に變し卒業式場

（昨日の青山學院）

報知新聞

日本基督教界の明星本多庸一氏の訃音に接せる廿六日午後の青山學院には、末代迄も語り繼ぐべき世にも美はしき一場の光景こそ映じ出されたれ。

▲歡樂を極めし卒業式　此日恰かも天氣晴朗風も穏やかの彌生日和に青山學院にては、殊に芽出度き卒業式なりと生徒は孰れも喜びに充ちて、麗かの春の日影を浴びつゝ嬉々として皆登校し來れば、式場には賑やかの奏樂の響起りて諸國の芽出度き建國の歌或は殖民地の歌など嚠喨と響き、滿場皆歡喜の色に滿ちて軈て卒業證書授與も芽出度く濟み、生徒一同は今しも思ひ〳〵に家路を指して喜びの家土產を齎らし歸らんとはしたりけり。時正に午後二時。

▲悲哀を極めし式後の訃音　然るに恰かも此時なりき校長は一通の電報を手にして式場の壇上に現はれ出つゝ『諸君今長崎から電報が參りました、本校の名譽校長本多庸一君は』と云ひ出たるが、突如此時聲は切て電報持つ手は戰々と震ひぬ見上ぐれば校長の眼は强かに淚に潤みぬ歡喜の頂點に達し居る生徒等は、いとゞ其意を解し兼ねぬ。本多氏が長崎に赴きし事さへも知る人餘り多からぬに、今迄賑の奏樂の聲に歡樂を極めける校長が突如異樣の此樣に一同は唯々驚きの眼のみ瞠りたりき。然も途切れし校長の聲は暫時あつても更に續かず、斯くと見し大學の一部長は軈てツカ〳〵と進み出でつ

つ簡單に本多氏の訃を告げたりき。此時の滿場の光景は僅に斯くも美はしき例やある。滿場に溢るゝ一同の口より忽ちワッと云ふ一聲は靜粛を破りて洩れ出でたるが、後は又た忽ち靜寂に還りて唯其處茲處の隅々より微なる嗚咽の聞え來るのみ。此時ハリス監督は悄然として立現はれつゝ徐かに力ある聲を絞りて、誠心籠めし祈禱を始めぬ。絶えては續く其聲や死せるが如くに森閑たる滿堂の中に響き亘りて、莊嚴又更に莊嚴。靜寂又た更に靜寂。滿堂皆唯聲を呑みぬ。輝々たる窓外の春光、獨り平然として學院の天地を照しつゝありき。

東京だより

國民新聞

◉本多庸一君の長逝は、東北をして、其の一人物を喪はしめ。基督教をして、其の一元老を少からしめたり。而して日本國民の立場より見るも、一損失たるを認めざるを得ず。是れ眞に惜みても餘あり。

◉本多君は、津輕武士也。君は夙に基督教の素養ありしも、亦た最も國事に熱心なる有志家たりし也。若し憲政扶植の運動者を求めば、白河關外に於て、河野廣中氏を推し。磐手に於て、鈴木舍定氏を推し。弘前に於て、君を推さゞる可らず。

◉君にして政界に身を委せん乎、少くとも其の所屬の政黨に於て、長老の一人たるを得可し。或は大臣たり、或は大臣たらざるは、只だ其時の運如何によるのみ。

◉國事に熱心なる君が如くして、全く其一身を宗教に投沒したる所以は何ぞや。或は曰く君は米國に於て、汽車の難に罹り。不思議にも、一命を拾ひたり。此に於て一生を無きものとして、之を天神に献げたりと。是れルーテルが雷に打たれて死せざりしが爲めに、意を決して、僧籍に投じたるものと、其の動機を一にするものにあらずや。是れ君の君たる所以歟。

◉君は其の輪廓何となく小ならざりき。何等の才氣の煥發するなく、何等學識の蘊蓄するなく、而して何等知辯の卓拔なるなかりしと雖も。一種の常識と、一種の調和力と、加るに隱忍包容の態度とは、自から人に長たるの資格を有したるが如し。而して其の短所も亦た此の長所の反面に存したるならむ。乘除の理此の如し。

◉されば時としては、君が旗幟の鮮明を缺ぎたる憾を、他の基督教の宗派の者に懷かしめたるともあらむ。或は君の部下に於ても、今ま一推しと云ひ、今ま一踏張りと云ふ所に、君の力の缺乏を惜みたる者もあらむ。或は與に事を爲さんとする者にして、君の不得要領に閉口したる場合もあらむ。或は君が要領を得ざるは、得ざるにあらずして、便宜上得ざるが如き振りをなしたるにあらずやと猜はしめたる事もあらむ。併し是れ亦た君が輪廓の大をなしたる所以たるを忘る可らず。

◉宗教家の憂は、動もすれば褊狹なるにあり。宗教家の病は、餘りに宗教的なるにあり。但だ君や如何なる場合に於ても、政治家的態度を以て、一切の問題を斟酌し。時としては其の眼識遠く時流の上に出でたるあり。而して君よりも有力に、且つ君よりも熱心なりし幾多の宗教家は疾くに其足を洗ひ、他の業務に轉じたるに拘らず。君や始終一貫、基督教徒元老の一人を以て安じたりしは、更に欽べきなり。

本多庸一君の死を悼む

井深梶之助氏

本多庸一君の死は、獨り之に由てその最初の監督を失つた日本メソジスト教會の損失ばかりではない、日本に於る全基督教會の一大不幸である。目下我が國の宗教界に於て有爲の人物の益々必要なる場合に本多庸一君の如き智德兼ね備り、信仰才幹共に優れた人物を失つたとは、返す返すも遺憾千萬である。本多監督の死は日本全國の基督者の齊しく悼むばかりでなく、歐米の基督教會に於ても、君を知る幾千萬の教友はまた深く之を惜むに相違ない。

本多庸一君は日本に於ける最初のプロテスタント基督教信者の一人であり又最初の基督教傳道者の一人であつた、君が横濱で洗禮を受けたのは明治五年三月である、然して傳道者として許されたのは明治八九年の頃と思ふが實際は洗禮を受けたその時より傳道を爲て居られたのである。自分が始めて本多君に逢ふたのも其頃である。明治七年の夏本多君は二人の青年を携へて上總房州に傳道を試み、自分は一人の同窓と共に上野州方面に出懸けたことがある。その翌年頃君は弘前の東奥義塾の爲に歸省することとなつたが其時の君の熱誠に溢れた告別の辭は四十年後の今日尚鮮かに記憶に存して居る。本多庸一君が日本に於ける基督教創業の時代に際して如何に傳道の爲めに教會建設の爲め教會合同又は同盟の爲め基督教青年會の爲基督教主義教育の爲めに盡瘁したる、それは今一々列擧することは出來ぬ。

唯此に一つ注意すべきは本多君は熱心なる傳道者たると同時に熱烈なる愛國者であつた事である。君は基督の福音を宣傳すると同時に常に國家の問題に留意し自ら一家の經世家であつたことを記憶すべきである自分は明治の初年に横濱海岸教會に於て君と相知り君が歸省してからは、自ら疎遠であつたが、其後君が青山學院長と成つて上京せられて以來、絶えず親しく交り殊に日露戰役中には相携へて歐洲諸國を巡回し、又一昨年の夏エデンボロー府に於ける萬國宣教大會にも君と共に日本の基督教會を代表し、歸途には米國まで同行し、最後には本月九日京都に於て開れた教會同盟發表會にも共に出席して演說を爲し、九日の夜自分は演說を濟して、直ちに同君に別を告げて歸京し、君は翌朝長崎へ向け令夫人同伴にて西行せられたのであるが、是れが自分に取りては今生の別れであつた、

本多君の人物に就て批評を試むるやうな事は、自分には今は出來ぬが何人でも一たび君に接した者は、君の温厚篤實の人であつたことを知り君の演說說教を聽た者はその熱誠確信の人であることを知り、君と共に重要の議事に與つた者はその公平不偏で、而も智謀に富んだ人であることを感ぜぬものは無かつたのであらう、何れにしても本多庸一君は日本に於る初代基督教會の長者であつた、自分に取つては肉身以上の阿兄であつた。今此阿兄に別れて何とも言現すことの出來ぬ感がする。乍然本多君自身に取りては恰かも愛國の士が國の爲に戰場に斃るゝが如く、日本最初の監督の職務に殉死せられたので、之には天父の深き御心があるに相違ない。（福音新報）

故本多監督のことども

記者は去卅日夜本多監督の令甥にして目下大阪にて實業に從事し居らるゝ西舘健次氏を訪問して監督のことにつき種々聞き得たが其の二三を記して本多氏の性行を讀者諸君に紹介しやうと思ふ。

▲私の父は死んだ本多の伯父の三番目の弟で中學校の教師でありましたが、數年前に死んでしまいました。私は父があつちこちしたり、祖父が東京に居たと云ふ所ろから、六歳の頃より伯父の家に世話に成りまして其時から父の許に歸つたり、伯父の家に居たりしましてこの間が十數年でした。

▲寛大　子供心に覺へて居る事は伯父は私共がどの樣な惡戯や惡るい事をしても怒つた事がありませんでした。が私は此の伯父の怒らない所が何となく恐ろしかつたのであります。家庭でも其の通りで嘗て怒つた顏を見せたことがありませんでした。

▲嚴格　伯父は書生が大變好きで隨分書生の面倒を見ましたが、只だ寛大で世話すきなばかりでありませんでした。或夜突然同縣の者だと云つて一書生が伯父に世話して貰ひに來たことがあります、所ろが伯父は其青年に何故に上京したかと問ふたが、青年は青雲の梯に望んで死すとも歸へらずとの決心もて上京したと告げました。所ろが伯父は一言下に男子夫れ丈けの決心で上京したのなら何故に人（伯父）に依頼して來るかと云つて放ねつけてしまつた事もありました。

▲子煩惱　伯父は性來子供が大すきで海外旅行などした時には必ず家の子供や私共や親戚の子供などに一々奇麗な繪端書などを贈つてくれました。先年下谷教會の牧師であつた三上さんが亡くなれました時に其の溺愛である生後三日の女嬰兒を引き取つて世話をして自分の孫以上に愛して居ました。其の子供が病氣に罹りなどした時には夜も碌々に睡らず看護をしました。

▲同情　私などが人を批評したり惡口を云つたり伯父の前で致しますと、『矢張り人間だもの』と云つて笑つて居られました。それで知友人は勿論一寸でも關係ある人等が失敗などしますると、今頃はどうして居るだらうかと非常に心配相な顏付でよく話して居るのを聞きました。

▲淸貧　私が一番氣毒に思ひましたのは私が伯父の内に厄介になつて居ます時には伯父の靴掃除をするのが私の役目でありました。夫で來訪の牧師方や教師方の靴に比較致しますと伯父のは何だか情ない樣な氣がしました。穴の開いたのや口をあけたのがたくさんありまして、伯父は時々自分で針と糸とで、他の古靴の皮を切つて、縫ひ付けて穴閉ぎをやつた事が度々ありました衣類は極質素で大抵綿服でした。散髮なども家の書生によくさせまして、彼の亞米利加へ行つた川村君が伯父の床屋さんでした御承知の通り靑山學院内の伯父の住居の應接間にあちこちから寄せ集めの破れ椅子が並んで居ます。

家事向きの事は一向に無頓着で伯父夫婦は隨分困難をしました。然し伯母が仲仲堅忍の性質の人ですから、一家全く財政上に困難なきもの〻如くに見へました伯父は常に『人と云ふものは正直な心事で常に居る事が出來れば神は必ず其人を捨て措かない』と申しました。そんな氣ですから困難をして居る人を見れば直ぐに助力してやると云ふ風でした。それで可成財產もありましたけれど教界のために東奔西走或は人を補助したりするために一切無くして仕舞つて今では却つて▼

イナスと云ふ格でありましよう。食物には一言半句の苦情をも云ひませんでしたが『薩摩芋は死んでも食はない』と申しました。

▲祈禱　伯父は家に居ますれば必ず家庭禮拜の司會をして、祈禱に於ては先づ兩陛下を始めとし國家、敎會、親戚知友、家庭に至り何んとなく親切な祈禱をする人だと感じました。

主從の關係を非常に重んじましたので津輕伯に對しては全く嚴格に舊臣下としての禮をよく盡して居りました。

▲勸勉　伯父は彼の大きな身體に伴ふ體力を具へて居ましたが隨分精力の強い人で夜は十二時より早やきことなく一時二時頃寢て朝は早起でありました。大抵は人に出す手紙の返事を書くために、代筆など人にさせた事は絕對にないと云ふてもよい位ゐです。私共によこされた手紙でも決して略式でなくちやんと本式でした。それから暇さへあればよく讀書をして居ました。

永ぐ同居して居たのと餘り突然であつたのとで何を御語してよいやら薩張りわかりません。只だ伯父のニコ〳〵した肥つた顏が目の前にありありと顯れてくるのみです。（基督敎世界）

本多庸一氏葬儀

時事新報

基督敎界の元老故本多庸一氏の葬儀は二日午後二時青山學院の講堂に於て日本メソジスト敎會、青山學院メ派宣敎師團。日本基督敎青年會等四團體の公葬としていとも深沈かに營まれたり、當日は朝來春雨瀟々として今を盛りと咲き誇りし構内の櫻に音もなく降りかゝり更に寂寞を深からしめたるが、式の順序は氏の自邸(同校構内にあり)出棺、葬列を正して式場に來り式後、直ちに遺骨を青山墓地に埋めたり

▲桂公と津輕伯　當日各方面より寄せられたる弔電、弔詞及び花環等は非常に多數なりしが中にも桂公は一際美麗なる巾廣の白リボンを結びたる大花環二臺を贈りたり而して右は日露役當時我國と外國との宗敎的外交に就て世人の知らざる深大の功勞を故人が致せし爲之を追念しての寄贈に係り又故人の舊藩主津輕伯も美しき花環を贈り其他北海道在住數友秋田市長を始め東北各地、神戶、九州、朝鮮の各地よりも弔電又は代表者を送りし向多かりし

▲雨中の葬列　式場なる同校大講堂の正面には綠葉と生花とにて造りし大十字架を飾り其の下に盆栽數個及純白西洋草花を配置しその前面に會葬者の席を設けたるが定刻なる午後正二時となるや葬列は日本造の極めて質素なる本多邸玄關より出で故人が竹馬の友なる長谷川哲次氏半白の頭を雨に濡しつゝ先驅をなし次に生花造花幾十、次に青山學院現院長小方仙之助氏、名譽監督ハリス博士、故人が最親艷の敎友井深明治學院總理、本鄕中央會堂傳道主任コーツ氏、小崎弘道師其他門下生等十數名が肅然として步を進めたり。

▲學生柩を擔ふ　次いで柩は二十名の神學生が紋附の羽織に袴の股立高く揭げて擔ぎて雨中を式場へ向ひたるが柩は黑布に包まれ上に勝利の標示なる花環とキリストの弟子として其最後に倣ふを標示したる十字架とを載せあり棺側には數内長崎管理局長中山長野中央會堂牧師其他近親の人々十數名が附添ひ柩の後に本多未亡人貞子、令息二郎氏以下親族、敎職員等從ひつゝ式場に至れば青山學院男女學生八百名は獨に柩を迎へ式場に入り小方院長司式の下に讃美歌合唱聖書朗讀、祈禱、履歷朗讀あり最後に小崎弘道氏の祝禱ありて午後四時二十分頃に式を終りたり

▲遺骨の埋葬　式後遺骨は親族知友一同に送れて青山墓地に埋められ本多庸一墓の五文字のみが鮮かに記されたる一尺角の新しき墓標に雨は何時霽るゝともなくしと〳〵降りそゝぎ居たり

三四

（○宗 敎 界）

國家と宗敎

中央新聞

『今や國家改造の大業略ぼ成り、徐ろに

其成績に就て觀察すれば上下擧げて唯物的思想に驅られ之を歐米諸邦の物心相並びて進歩向上を謀りつゝあると同日に論ずべからざるものあり。床次氏其他内務省有力者諸氏の此邊の事に着眼し大に形勢の改善を謀らんとするは吾々の深く同情を表せんと欲する所なり。

然りと雖も政治家の宗教に對する干渉多きに過ぐるも、宗教家にして政治に干渉すること過度なるも共に失敗に終るべきは古今東西の史上歴々之を證すべし、而も兩者亦全く分離すべからざるは、人間の肉體と精神の分離すべからざるが如し。吾々は此際三教の融和を贊成するも、其共通の點を認めて意志の疏通を謀るに止め、政府と宗教の關係に於いては互に絕對に之を利用せんとするの念を去り唯間接に相援け、各々其領域に向つて益々努力するを期するに止まらん事を希望するものなり。

床次氏が縷々辯明して政府にては毫も宗教を利用するの意なきを云へるは吾々の極めて贊成する所にして、此の趣旨に基きて開催さるべき今次の會議は、必ずや多少の功績を收め得べきを疑はず。

三教會同に就て

東京學院教授　千葉勇五郎氏

昔の三教は神、儒、佛であつたが今は儒教が取れて基督教が入つた。つまり、一方から見れば政府が法律や制度教育に依つて國民道德を振興せんとせしが、それらの事が一切無益であつたことを示して居る。然し又他の方面から觀察すれば寧ろこれは宗教家が充分爲すべきことを爲さざりし故政府當局者の注意を受けたと云ふ次第で云はば從來の日本の宗教家の無能を曝露して居ることであると思ふ。床次氏の演説の中にもさう云ふことを云はれて居る。日本に十萬の宗教家があるがその人々が充分に盡力して呉れればもつと敎化の實蹟が擧がる筈である。昔の高僧と云はれた人は草鞋がけで出で働らいた。今日の社會でも姑息なる退嬰主義に陷らず、世に出でゝ活動し宗教をして社會の要求に適應したるものとして貰ひたい。宗教を破壞するものは宗教家自身であると云ふやうなことを云はれた。これは聞き捨にならぬ言葉である（大阪新報）

教職のなぐさめ

大阪教會牧師　宮川經輝氏

米國には　ニーリピーチャーといふ一牧師があつて一夕教會の夕の集會を開く爲めに時間に先立つて教會に行つた折しも、車軸を流す大雨で誰一人來る者もない。牧師は獨り端然と椅子に依つて居るところへ、ずぶぬれの一青年が飛び込んで來たので、牧師は立上つて讃美歌をうたい多人數に對す如く、熱心に說敎をした。其後十有餘年の星霜を經た或日、一人の紳士が來て云ふのに、私は十三年前某教會の前を通りかゝつた時に大變な大雨に出會して、雨宿りの爲めに教會に飛び込みましたが、其時先生は實に愉快さうな態度で、說敎をなさいました。聞くともなく聞かされた私は大に感じて、一生牧師になつて衆生を救ひたいと思ひ立ち、神學校に入學し先日卒業して牧師になりました故、一度先生に御目にかゝつて其折の御禮を申上度くて參りましたと話をしたので、其牧師は多人數の集會で一人の人をも救ひ得ぬのと一人の人に說

敎し一人を救ひ、然も聖職に志す樣になつたのを追想して感謝の涙にくれたといふ話しがあります。(談)

(〇家庭敎育)

家庭全體の幸福

高師敎授 本會賛助員 安井哲子女史

同一家庭に生活する人の先心懸くべき事は、家庭全體の幸福が得られねば、決して自分が滿足を感ずる事の出來ぬ者であるといふ事を覺へる事であります。例へば主人が如何に得意でありましても、家族の中に不平を抱く人があれば決して家庭に於て愉快を感ずる事は出來ますまい。其故に主人を初め家族互が能く同情しあつて、お互に盡し合ふ親切を深く感謝し、主人は自分が外に出て充分に働き得るのは、内に己れを慰むる妻があるからであると妻の勞を思ひやり、妻は又終日其家族のために外に働く夫の勞を感謝し、成るべく多くの慰安を與へんと努めますれば、朝から晩まで齷齪と働く家事にも亦一種の深い意味があるやうに思はれませう。かくの如く舅姑は嫁が苦勞を思ひ、嫁も亦舅姑の境遇に同情すれば、互に他人の位置を了解する事が出來て、幸福の生活が出來得る筈であります

一體人の不滿は自分本位から起る事が多いので、主人は、家族を以て自分の爲めにのみ生存して居る者と考へ、妻は又自分の幸福を本位として周圍に求め、舅姑嫁子供等皆自分の滿足のみを目的として生活して居ますれば、他人の勞を察するどころか、何んでも皆不足に感じて、もつと親切にしさうな者だ、今少し同情がありさうな者だといふ樣に、常に不平の念に充たされ、側の目には非常に幸福に見える人でも、自分自身に不幸の人となし終るのであります。

そこで又かくお互に同情しあふには相信ずる事が必要で、親子兄弟夫婦の間に何等の秘密を有たぬ程愉快な者はありますまい。吾々は人間である以上、時には慾望の奴隷となつて正しからぬ行爲をなす事もありませうけれども、互に信じ合つた間には恥づべき事も打明けて語り得るために眞の悔悟をもなす事が出來るのであります、金殿玉樓よりも茅屋の吾家の方が遙かに樂しいといふのは恐らく其邊にあるのでありませう。(婦人畫報)

夫の慰藉者としての妻

山脇房子女史

妻君の容姿美的觀念

男子方が社會に立つてお働きなさる骨折は漸々激しくなり、渾身の力を揮ふて立たれば此の生存競爭に打克つことが出來なくなつて來て居ます、男子方は斯樣に働いて疲れて居ますから家に歸つては充分なる慰藉を得ずば明日の新しき活動に必勝を期することが出來ないといふ有樣でありますので、家庭で其元氣を注入することの出來ないものは色々の方法をもつて之を講じやうとするのであります。是はつまり社會の缺陷からも來ては居ますが、我國の今日の婦人が一體にぶきつちよで我儘で趣味が狹隘で容姿美的觀念に乏しいからであると私は斷言いたします。生存の競爭に疲れたる夫をば如何にして劬はり慰めるか、其を具體的は曰へば種々なる方法も御座いませうが、大まかに申せば先づ夫の惡感を惹起さゝる容姿態度をすることが必要だらうと思ひます。ところで今日の實際はどうでしやうか、少しく家庭に這入つて年を經ちました御婦人などといふものは容姿には些とも顧みず、髮も容もおごろ〳〵して恰も病後の患者か何かのやうではありませんか、あれでは到底夫の慰籍にならうとは思はれません。それからまた社交的接待といふやうなことも至つて下手で、到底大勢の人の前で調和者となりて社會の花たるところの現代的任務は今日の

ところ少しも盡されて居ません。

藝妓の跋扈するも道理

斯様に現今の日本婦人の態度で零でありますから、宴遊會とか何か總て大勢の人の集まるやうな場所には、藝妓といふ社交的任務を心得たるものが何時でも紳士の會合は私達の領分ですと云はぬばかりに大部分の仕事をなして居ます、假りに御夫婦同道でこういふ公會に莅んだ方があると致しましても、今日の婦人は人前へ出るともう啞者のやうに默つて隅つこへ引込んで計り居て何の用もなさないのみか、却つて御亭主の邪魔となり、且つ又偶々妻を誘ひ出したと致しましても、其奥様が着物の着やうや其他の身嗜みが不格好で二目と見られぬといふやうな工合ですから、自然と御主人も二度とは誘ひ出さず、矢張り藝妓といふ社交的辭令に長じたものを聘して來客の接待に充つるのでありますが、これは洵に止むを得ないこと道理あること丶思ふのであります。

須らく藝妓の長所に學べ

私は男子方に御世辭を申すのではありませんが、其の社交的會合の場合なぞは藝者を招んで待接の役目を授づけるとか、或は又時折り藝者の特技である一種の藝術を見るとかいふことは、唯今のやうに一般婦人が夫の精神を和げ喜ばす表情の藝能が缺けて居る間は止を得ない事と思ひます。藝者を招ぶとか近寄せるとかいふことは前に申した如き一時の精神暢劍の爲めならば、これを認容せればなるまいと思ひます。少なくとも唯今の婦人方が、藝者の特長たる他人の神身を慰する心得を無意識のうちに備ふるやうにならればば、男子の藝妓を招ぶことを批難するものは婦人自身の力の足らぬ處、藝妓が熾んに世間から歡迎せらる丶間は婦人全體がまだ新時代の婦人の心得を解せぬ結果であつて我々の罪と思ふのが至當であります。

（社會政策）

○女中問題

女中使用に對する注意

三輪田高等女學校教頭 三輪田元道氏

近頃世間では女中が非常に拂底して居ります。又實際女中を使つてるもの丶事を聞いて見ると今の女中はやれ勝手だの、我儘だの、やれずるくていけないなどの批評があるが、それには慥に一大原因がある事と思ひます、世の中には寧ろ貧民の數が殖えて行くにも拘らず、それが足りないと云ふのは一つは教育のお蔭で自分の人格を重んずるやうになつたところから、所謂獨立生活を精神的に自覺するやうになつたからで一家の婢僕となるよりも或は女工、或は電話交換手或は女事務員などの方向に多く行くやうになつて來ました。而かもまた婢僕を奴隷視すると云ふ惡習慣が上流社會の頭に殘つてるからだらうと思ひます。

昔は女學校など丶云ふものがなかつたから、上流社會の極く堅い家へ行儀見習ひと云つて行くのが恰かも今日の孃さん方が女學校へ御出になるのと等しい位でした、從つて其時代は主從の間柄が極めて親密に結ばれて居りましたが、今日では使ふ方も使はれる方もほんの月給だけの働きしかしないやうになつて來ました。

併しこれはその使用法如行に依つて舊來の美風を持續することが出來るのであります。まづ主人側の方から云へば、婢僕の人格を認めると云ふ事が何よりであります。待遇などの事でも例へば夜具なども冬になれば暖くしてやるとか、或は夏になれば蚊帳も與へるといふ風に、又食物等も主人と同樣には行かない迄もあまり非道いものを食べさせないやうにしてやる事が必要であります。それから日本では小さい坊ちやんや孃さん迄が隨分女中に無理な事を云ふのが多いやうですが、斯う云ふ事からして所謂馬鹿息子が出來るやうな事になるもので、よく〳〵愼むやうにしたいものであります。外國でも獨逸などはいくら召使ひでも年長者の言ふことは總て從ふやうになつて居ります。ですから坊ちやんでも孃ちやんでも女中に對して威張るやうな事は親からさせないやうにしてあります。我が國でも鹿兒島などは比較的この主義になつて居ります。要するに婢僕を奴隷扱ひにする事は國民の不利益であります。

靜岡支部員に告ぐ

廓淸會靜岡支部員にして、靜岡市内に居住せらる丶向は自今本會々費を左記の委員へ御拂込を乞ふ。

靜岡市裏一番町二六
田中鉦太郎氏



小憤慨錄

一記者

▲今度の洲崎の大火の節でも、度々新聞でも見、又警察官などの口から折々聽く事で、吾々に怪しく感ぜらるゝ事は、娼妓が逃出したとか、又は失踪したとか云ふ事である。甚しきは何處々々にて取押へられ、樓主に引渡されたりなどの記事を見ることすら屢々である。全體娼妓なるものは、法律上獨立の稼業者である。彼等は何處へ轉居するともそは自由でなくてはならぬ。學生が自由にその下宿を轉ずる如く、彼等は何處に行かうとも（指定されたる遊廓地でありさへすれば）それは警察官の干渉する限りでない。或は風俗の取締上、その必要ありと云ふ。それならば娼妓名簿の取消をさせたらよいではないか。何故に警察官は彼等を取押へて、（恰かも逃亡囚人でも捕縛するが如く）而かも再び樓主に引渡すが如き不都合を働くのであるか。今日の警察官が、貸座敷業者とグルになつて、弱者を虐むる事は甚しいものである。

▲自由廢業にしても其の通りだ。一體娼妓の廢業でさへあれば、何人に敎へられての廢業であらうが、何人に連れ出されやうが、何も文句はない筈である。警察官は只娼妓自身の廢業届書を受付けて、名簿を削除さへすればそれでよい譯ではあるまいか。或は又それでは娼妓名簿から形式的に削除するだけであつて、何處かへ行つて賣淫を爲し、風俗を亂さんとも限らぬなぞと云ふ議論もあらうけれども、その時は又その時に臨んで適當の處分法が設けられてあるのではないか。再び罪を犯すか犯さぬか分りもせぬものを多分犯すであらう位の想像で、人身の自由を防げるのは不都合な事と云はねばならぬ。吾々は飽迄娼妓の自由がモット確保せられねばならぬと叫ぶ者である。

▲東京の新宿遊廓には、五十八軒の貸座敷があつて、それに使役する雇人が三百人居るが、之が日々頻繁に交代して居る。而して此を供給する親方は、同町二丁目平井重太郎と云ふ者で、此人の手を通らねば雇入れる事も雇入れられる事も出來ないさうだ。先づ來り投ずる妓夫志願者は、例令仲間の紹介でも、手拭一筋に金一圓を添へて親方へのお目通り料とし、いよ〳〵住み込んだ後は、六十錢づゝの稅金（役金と稱す）を納め、其他疊換、冬の仕度、それ等の臨時費として、毎月五十錢宛絞り上げられ、そこで親分重太郎なるものは、月々初見參の贄料として少くとも二百圓、役金人頭割金百八十圓、臨時徵集金少くとも百五十圓、合計五百三十圓と云ふ莫大なる收入がある。そして妾の二人も圍つて居るが、嗚呼之が一千の娼妓の血の精である。

▲大阪大火の際某新聞に市會議員娼妓を燒殺さんとすと題し左の如き記事があつた。『過般の大火の時遊樂館を燒いた紅蓮の舌頭は爆然として忽ち乙部全體の大厦高樓を猛火に包んだ、これが爲逃げ惑ふ

三千の娼妓は血烟を立て猛火より脱せんと阿鼻叫喚此世からの焦熱地獄。此時乙部の前取締役を務め今は市會議員の榮職をもせる綿梅樓上田忠三郎は自家娼妓全體を暴くれ男や引子等に依つて一室に集め一歩も外へ出さず其上これ等娼妓に鞭打ちて土藏の中に押込めた。火は容赦なく猛威を逞しくして燃え擴がり爲めに土藏の中の娼妓はあはれ蒸殺されんとした頃漸く土藏を開いてこれを一纏として火の中を避難さしたとの事。これ何たる事か今一時土藏の開放遲かりせば數十の娼妓無慘の燒死したるならん。此の無謀實に人道上許すべからざる行爲で斯る奴が市會議員だの取締りだのとして置くとは其區民が惡いのだと云はねばならぬ。人間を動物よりも以上物品扱にして蒸殺さんとした上田忠三郎の行爲は實に人鬼か？憎みても尙餘ある暴漢と云ふべし』

▲藝娼妓開放令は、明治五年に既に發布せられて居る。何故に實行せられぬであらうか。或は之を廢したら街がさびれるの、或は此の制度を置かなんだら出齒龜連が出來るであらうの、或は淫賣窟が蔓るだらうなどと云ふけれども、皆悉くいゝ、だらうづくめで、殆んど一人も確固動かす可らざる斷案を與へ得る者はないのである。

▲風俗の爲めだの、土地の繁榮の爲だの、或は衛生の爲めだのと云ふが、事實は却て反對の現象を示して居ることは何人も知る處で、要するに今日になつては公娼問題は理論の問題でなく、個人の利害の問題であり、情實の問題である。或は公娼廢止は既得の權利を剝奪することであつて、斯の如きは政府として不都合の事なりといふものもあれど、そんなら支那政府が阿片を禁じた事も當業者に取りては既得權の掠奪ではないか。國民多數の爲、又は人類の幸福の爲なれば之は止むを得ない事である。又都合によりては今後五年なり或は十年なり期間を限りて、そしてその間に轉業すべく命令を發したら宜しい。此んな事に躊躇する必要は斷じてない。



▲阿片といへば先頃和蘭の海牙に於て萬國阿片會議が開かれ、日本よりも代表者を出した。阿片に關する萬國會議が開かるゝ世の中に奴隷賣買に關する萬國會議が開かれないのはどうした手落ちであらう。列國は最早廿世紀は殆んど奴隷の存する國はないと見て居るのであらうか。何ぞ知らん、東洋の大帝國を以て誇る日本帝國には金錢を以て其身體を賣買せられ、其自由を有せざる妓隷が、藝娼妓の名の下に殆んど二十萬人に近くある。萬國妓隷會議開かれざるべからず、誰か此人道問題の提議者たるものぞ。而して阿片會議に人を派す日本政府、恐らく之を拒絕する譯には行くまい。

昨今の自由廢業

記者

△千住の廢業

三月二十二日の午前六時頃、一人の婦人が救世軍の山田氏を訪ねて來た。段々樣子を聞くと、府下北千住一丁目十七、佐野屋事峰崎林太郎方娼妓初緑事、緑川リンと云ふもので、身體の弱い事と、其外に自分の廢業の決心を固めたのは、お客の中に自分に無理情死を迫まつてゐるもの丶ある事で、現にこれ等は其時に取上げたのであると云つて、赤色の結晶體（重クローム酸加里？）の紙包を示した。其後も又小刀等を持つて來て迫まつた事もあつて、それからといふものはどうかして廢業したいと思つてゐるが、どうしても警察の方に出る事が出來なかつた。そこで機會を待つてゐる中洲崎の火事の晩、二階から高塀を乘越して思ひ切つて下へ飛び下りた。飛び下りはしたもの丶、何分高い處から飛んだのであるから殆んど氣絶せんばかりになつて、暫くの間其儘打伏してゐる中、通りかゝりの人に助けられて、辛うじて車を呼んで貰ひ、玆にやつて來たのであるといふ。

山田氏は一應本人の意志を確めて正午頃警察署に同行して名簿削除の申請をした。暫くすると山田氏を應接室に招き一通りの事を聽き取つて直に本人を別室に呼び亦聽取書をこしらへ、一方樓主を召喚し、どういふ話をしたか知らぬが、多分本人はかう〳〵いふ譯で廢めると言渡した丈であらうと思ふ。本人と樓主とは全く面會させないで、一時間も經たぬうちに萬事を了して引取つたといふ事である。

△洲崎の廢業

深川區洲崎辨天町一ノ五辰八幡樓事成塚原次郎方娼妓九十九事織田ゑし（二八）が三月二十七日午後十時頃、二六新報社社員と共に山田氏を訪ねて來た。來意は廢業の爲め警察へ出頭しやうとしたが手續等が不案内であるから、二六新報社へ頼つて行つたのを、同社では其事ならば救世軍へ行つて頼んだ方がよからうといふので社員を付して救世軍へ送つて來たのであるとの事である。

で本人の希望等を確め、山田氏は直に本人を洲崎警察署に同行した。時は既に夜の十二時過であつたので宿直の巡査が今夜は時間も遲いから萬事は明朝警部補の出勤せられた後に取調べる事にするといふので本人を殘して引取つた。

翌二十八日朝十時、同署に出頭して見ると樓主の代理らしき者と本人と切りに談じてゐる。樓主代理は『兎に角一度歸つた上で、合意上廢業をするといふ事にしたらば可いではないか。』といふ。本人は『さういふ手段で連歸られて無理往生に娼賣をさせられたもの丶ある事を知つてゐるから、此際斷然廢業する。』

彼等相互のいふ所は多岐に亙るけれども畢竟するに此のことを繰返すに過ぎないので、山田氏は彼等に『其麼に同じ事を繰返して居つても仕方があるまい、大抵な處で結末を付たらよからう』と述べてゐる時、警部補は山田氏に『樓主側に對して本人の代理人の樣な口の利き樣をして吳れては困る』とて更に樓主代理に向ひ『此人は何の關係もない人だから、話す事があれば、直接婦人に話したら可らう』

と申渡した。そこで樓主代理は一大勢援を得たる如く前の言葉を繰返し歸宅を勸めたけれども、本人は頑として最初の決心を主張して止まなかつたので、最早全く交渉斷絶の姿となつて了つた然るに警部補は、『廢業は許しもしやうが、お前の娼妓となる時の承諾者に話なしたか、承諾者とは親の事ぢや、親に話なしたか』と奇問を發した。まだ話してないといふので親を呼びにやる事にした。時に午前十時五十分であつた。

此時また樓主側の者が來て頻りに女を勸誘してゐたが、女は山田氏に『樓主の方で親を迎ひに行きましたが、何となく心許ないから、迎ひに行つて下さらぬかといふ。山田氏は尤と快諾して淺草の實家を尋ねて行つたけれども、生憎不在で多分夜にならなきや歸るまいとの事で山田氏は直に引返して其旨を本人に告げ、更に警部補に對つて、父親は不在で本人の意志は明白であるから、削除の手續を請求したが警部補は『此事に就ては何人と雖干渉するを得ずとあるから、君は此事に就て容喙する必要はあるまい』といふ。山田氏は『さうです。「名簿削除申請に關しては何人と雖も妨害をなす事を得ず」とあります。然るに自分の見るところでは、樓主並に其關係者をして交〻本人を説かしめ、果ては其親さへ呼出して本人の意志を飜へさしめやうとするのは、これこそ妨害であるまいか』『それは妨害ではない』『然らば妨害とは如何なる事を云ふのですか、本人の意志を飜へさしめんとする以外に妨害と稱すべきものがありますか』『それは説明の限りぢやない。兎に角當方で色々手を盡すのは、廢業後の紛擾を拒がんが爲めで、それにこれは内訓に基くものであつて、何も據り處なくして行ふものぢやない』『或は然うでしやう併し乍ら、今朝から樓主並に雇人などの交渉は最早破れ、本人の意志は明白ではありませんか、自分達素人の考へでは、娼妓取締規則の條項は所謂内訓によつて動かすべからざるものである事は、明かであると思ふ。規則の勵行せられむ事を望みます』『それは一を知つて未だ二を知らざる議論です。兎に角茲は議論する場所ぢやない。君等は警察が廢業の妨害をなす樣誤解して居るが、それでは困る』

這麼押問答をやつてゐたが、暫くして彼は山田氏を刑事部屋に呼び込み、妥協的に懇談した。其要點は。『自由廢業には實に頭を痛めてしまう、樓主の方では警察と救世軍と一緒になつて廢業させる樣に誤解するですからね、あの婦人も名簿の削除はするが、君は歸つて吳れませんか、實は君が居つて貰つては取扱上甚だやり惡い點もあるから……』『私は歸りません、それは本營の命令もあり、又本人の依賴でもありますから、結末のつく迄こゝで待ちます。』

「話柄は公娼問題に移つたが聞き逃すべからざるは彼が取扱の手心に付ての一言である『警察では一應本人と樓主と示談させ、樓主の方で、これでは到底駄目だと、諦めのついた上、削除をする事にしてゐる。親を呼びにやつたのも其爲めです』

茲へ丁度父親が出頭して來たので、警部補は名簿削除法に付て父親に問ふたが、『娘が左樣申しますなら何分よろしく』と申述べたので遂に削除の手續に移り、午後七時辛く萬事を了して引上げて來たといふ事

前の千住署の取扱と此洲崎署の取扱と二つ並べて斯うして見てみるに、同じ警視廳の管内で、時も相隔つてゐないにも關らず驚くべき取扱の遲延を見出すのである。千住署の取扱は何も特別に感服する程の事ではない、當然す可き事を當然した迄であるが一方洲崎署の如き奇怪なる取扱を見る時に於て吾等は賢明なる千住署の扱に感謝せざるを得ないのである。

殊に洲崎署では、昨年の十一月二日、松酒井樓の娼妓小町といふのが廢業を申請した時に、晩の十時頃出たにも關らず翌日の午後八時迄引張つて、其間に樓主を呼び兄を呼び出して本人の意志を飜へさせやうとし、樣々の手段を講じて終に廢業を妨害した事實がある。かよわい女、殊に無學な女が、官權と債權と、親權と、此三つの尤も權威あるものを以て迫まられては泣く〳〵も再び醜業に就くより外はない。折角救はれかゝた憫むべき盲龜は、無殘にも浮木より突放されて、底知れぬ泥海の中に長へに沈められるのである。救世軍では其當時之を警視廳迄持出して局に當つてゐる人から「調査して見たが如何にも不都合であつた、以後を注意せしむるであらう」といふ回答を得た事があるに今回又々當時と少しも變らない取扱ひに接したのは、甚だ遺憾である。

△吉原の廢業

新吉原角町二七新寶樓事石渡由久次郎方娼妓靜子事、坂田リカ、といふのが救世軍に身體が惡くつて廢業したいと三通の手紙を寄越した。本營では四月二日午前八時頃、山田大校を派遣して本人に逢つた上本人の意志を聞糺し、すぐ警察に同行して一應取調の上、簡單に名簿削除の手續を了したといふ事である。

醜業者町長となる

記者

▲東京府下府中町では此程貸座敷の主人が町長に選まれた。それからして之は風敎上捨ておき難き事とあつて、同地の牧師志賀清光氏は之が爲今尚東奔西走して居る。が、それに就て時事新報は『醜業者の町長、府中町の實地問題』と題して左の如く報道して居る。

▲先年名古屋市に於ては、一貸座敷業者の市會議員に當選して世上の物議を醸し、又青森縣に在ても同業者の一人衆議院議員に選出せられて、社會の批難を被りたる事ありしが、今回又もや府下府中町に於て此顰蹙すべき現象の三度繰返さるゝに至りたるこそ、嘆息の至りと云ふべし。即ち時は昨四十四年十二月中頃同町に於て町長改選を行ひたる際、

▲現に貸座敷業を營む關田嘉右衛門なる人、候補として町會議員の間に熱心奔走したる結果、遂に當選して監督官廳に向ひ、就職認可を申請する運となりぬ。而して之を耳にしたる同町在住の牧師志賀清光氏は、大に驚き、萬々一監督廳に於て其就職を認可する如き事あらんか、貸座敷の主人公は學校の卒業式に臨みて式辭を朗讀し、或は公私の會合に出席して青年子弟を訓戒する如き奇現象を呈するに至り、風敎上道德上斷じて捨置くべき事柄に非らずと、奮然として起ち、町會議員は勿論短刀直入本人にも面接して反省を求めたるが、何れも言を左右に託して應せず。遂には

▲一種の妥協案を提出し來りて、假令ひ就職の曉と雖も學校其他風敎に關係する場處には出席を遠慮すべく、又其任期の如きも一年乃至二年にして一先づ退職すべければ、是非とも批難の聲を收められたき旨申來りたるが、志賀氏一派は固より承諾すべき事にあらず、益々進んで反對運動に從ひ、個人的の談判に由りて到底反省を求むる能はざるに於ては、社會の止むを得ず公開演說會を開らき、輿論に訴ふるの外なしとして、監督官廳たる郡衙は勿論、阿部東京府知事、床次内務次官にも面接委細を具上したる後、更に立敎大學の元田博士、江原素六翁、大隈伯等の賛助を得て、

▲演說會の準備を爲したるに、關田氏は八方に手を廻して會場の妨害運動を始め、劇場寺院等苟も二百人以上を收容するに足る場所は、一切同氏の意を受けて會場貸與を拒絕したるのみならず、流言を放ちて志賀氏は運動費の辨償を得て反對の聲を收めたりとか、又近々東京市内の某敎會に轉任する事に内定せりとか、言ひ觸して飽まで非違を遂行し、以て一町を擧げて天下指彈の的とならんとする如き愚擧を演じつゝあり。而して一方志賀氏は此中傷を聞きて愈々憤慨し、兩三日來入京して頻りに當局並に有志の間に奔走中なるが、氏は斃れて後止むの覺悟を以て是非とも、關田氏の反省辭任を見ずんば止まざるの決心なりと云ふ。云々』

廓淸會は此問題に就ても十分の活動を爲す筈である。

大連の風紀

關東都督府囑託　柴田博陽

滿洲に於ける本邦出稼ぎの醜業婦狀態は昨年十一月の紙上に於て既に紹介したが、自分は更に大連のみに於ける醜業婦の狀態を詳細に調査し、其結果として

一、大連民政署の風記取締は比較的行屆き居ること
二、抱主を取扱ふは比較的寛大なること
三、醜業婦の多くは長崎、廣島、大阪であること

との事を認めた。而して第一項の民政署に於ける風紀取締りであるが、斯は比較的といふより寧ろ遺憾なく行屆いて居ると言つても過言ではなからう。兩三年前までこの市中の各所に怪し氣なる料理店や、旗亭が散在して居たけれども、漸次改良せられて今ではその影だになく、所謂魔窟と稱する一部落は、市の南端なる逢阪町と云ふ一廓に葬られて了つた、夫れで白晝は勿論、夜間に於ても市中に彼等の醜態を見る事が出來ない、言ふ迄もなく大連は歐洲連絡の關門であるが爲、當局者は此處に理想の市街を築かんとし、風紀の取締などにも努めて嚴重にして居るのであ

顧ふに内地人は大連を以て百鬼夜行の巷であるかの樣に想像するであらうが、事實は反對で寧ろ内地の都市などより遙かに嚴肅である。併し大連も滿洲の一部分で、而も吾が租借地内の首府である。一度市街を少し離れて逢町坂の遊廓や小崗子邊の魔窟を見んか、醜業婦の盛なるは驚くべき者である。されど此處も矢張り民政署の管轄内である。其取締り嚴重なるが爲め殘忍酷薄なる抱主等も醜業婦に對し、滿州奧地方に於て行はるゝが如き非道なる取扱ひはせぬ。

顧ふに斯は其筋の監督嚴重なるが爲めでもあらうが、尙一つの原因は戰後間もなく、日本より救世軍が進軍して大連の一角に陣營を構へ、彼等に相對し絕えず監視して居るからである。

現に今日藝娼妓の抱主と被抱主との契約關係の如きも、頗る穩當である。先づ茲に一ケ月百圓の收入ありとせんか、抱主はその六分を得、婦人は四分を得ることになつて居る。其内抱主の負擔となるのは婦人の部屋代と食料で、婦人の負擔が自分の化粧料と前借の利子金三分五厘丈である。而して稅金は藝妓が一ケ月金七圓、娼妓が五圓、酌婦が三圓五十錢で、之れは双方の負擔となつて居るが、大連には娼妓といふものがない、逢坂町といふ遊廓町があつて、娼妓のないのは聊か矛盾して居る樣であるが、稅金の關係上で、營業者側より民政署に對い、娼妓を酌婦といふ名義に變更を願つたのである。民政署もその情狀を酌量し許可して娼妓の名稱を全部酌婦としたのであるが、大槪如上の契約となつて居るから、婦人の方に取りては敢て恨みはない。

併し夫れでは醜業婦が多く出稼ぎ通りの金を殘す事が出來るかと云ふに、矢張り彼等は何ういふものか何時も借金に苦しんで居る。常に借金に苦しむばかりでなく、一種特別の滿州の惡性梅毒に罹りて、終生を病褥に送る人となつて了ふ。世に之程慘憺たるものはない。

而も如斯く慘憺たる境遇に沈淪する人々が、内地の何處より多く入り込み來るかといふに、廣島、長崎、大阪地方が多數を占めて居る。昨年末の調査によれば大連に於て公然鑑札を受けて營業し居る藝酌婦のみが八百七十一名ある。此八百七十一名の者の原籍地を詳細に洗つて見れば、

東京	三〇
京都	二一
兵庫	五五
長崎	一〇九
岐阜	一五
千葉	六
大分	三二
廣島	九二
岡山	二四
福井	二
三重	六
靜岡	二
愛媛	五〇
奈良	五
熊本	五六
島根	一六
山梨	三
埼玉	二
鳥取	二
大阪	八五
神奈川	八
和歌山	一六
福岡	五二
愛知	三八
香川	二三
滋賀	五
山口	四一
北海道	二
高知	八
長野	四
德島	一五
鹿兒島	五
新潟	五
佐賀	三三
茨城	一
宮城	二
群馬	一
計	八七一

以上の通りで、之に無鑑札のものを醜業婦に附隨する人々とを加ふる時は、勿論市内に於て一千名の醜業婦がある都合である。然し之等は以上の如く關西より四國、九州地方の者である、中には多少其他のものもないではないが、大連のみでなく滿韓地方に在る醜業婦は、槪して關西以南の者であると斷言しても差支ない。自分は同地方と出稼き醜業婦との關係、即ち彼等の族籍及び人情と風俗、生活狀態、出稼ぎの目的等に就て尙調査したる事もあれば、之を後日の紙上に紹介しやうと思ふ。序ながら大連で發行する花柳雜誌『スズメ』が昨秋南滿州重要地に於ける醜業婦の數を揭げて居た。之を參考として記さう。

旅順	三〇八
大石橋	四三
蓋平	一一
煙臺	二
奉天	二一一
開原	四四
公主嶺	一四二
長春	二四四
營口	一七九
海城	一九
遼陽	一四五
鞍山宕	一一
鐵嶺	一九七
昌圖	三
四平街	三二



廓清會紀要

洲崎遊廓の大火

（東京日日新聞の記事を借る）

禍の神、東京の遊廓を呪ふ何ぞ斯の如きや。昨年四月九日は彼の有名なる吉原遊廓大火の大慘事あり。次で昨夏七月大海嘯洲崎遊廓を襲うて慘、更に慘の極を演じつ。こゝにまた烈風颼々たる春季皇靈祭の日洲崎遊廓火を發して吉原大火に讓らざる慘狀を現じぬ。

昨日午後零時五十分深川洲崎遊廓辨天町一の五字六間中村樓事中村又次郎方と隣家なる龜江樓事山田龜之助方の間と思き處より火を發しぬ。折柄東京灣より吹く南風猛に火を煽る事凄じく見る見る火の手は北へ〳〵と進み數分ならずして一號地を甜め盡し、廓外の民家千餘戸を灰燼に歸し午後三時四十五分漸く鎭火したり。廓内の燒失戸數は貸座敷六十三戸引手茶屋四戸藝妓屋十五、雜業卅六戸、郵便局一、及び飲食店三十戸にして合計四十九戸、廓外燒失戸數は凡そ千餘戸。

△臨時役員會

翌三月二十二日、午後四時臨時役員會を本部樓上に開き、對洲崎問題に就て凝議した。出席者氏名左の如し。

矢島副會長　島田夫人　高原こう子
山室評議員　內ケ崎理事　山本理事
矢吹理事　山田理事　益富理事

頻々として遊廓の燒くるは天の我等に與するものにして、爰んぞ天與の機會を逸せむといふので滿場一致燒失區域の再興を否認し、大に之が運動に着手し、直に大演說會開催の件を議決し七時散會した。

洲崎遊廓問題 大演說會（第一回）

三月二十四日午後六時半、神田青年會館に於て洲崎遊廓問題大演說會を開く。益富理事司會のもとに山室軍平氏登壇、洲崎遊廓の燒失は、罹災樓主にとりては正業につくのに最も好き機會である。法律上何の保護もなく、いつ廢業されるかも知れぬものに大金をかけて、綱渡りの樣な危呑極まる世渡りから、安全なる正しい商賣に就くのには誠に絕好なる機會で、火事に燒け出されたる上廢業させるといふと一寸殘酷な樣にも聞えるが、實は却つて極めて親切なるものであると、貸座敷業なるものゝ、極めて危險な不正なる醜業なる事を說き、更に此際逃亡したる娼妓を、警察が捕へて樓主に引渡しつゝある幾多の事實につき當局者を詰り、彼等の逃亡は即ち廢業を希望せるものなるが故に、警察は彼等に廢業の手續を敎えて、正業に轉業さすべきに非ずやと論じ、益富理事は、內務省が人心の感化は宗教教育の相俟つべきものなるを知り、三敎者の會同を計つたのは喜ぶべき事であるが、一面に於て風敎を紊る源泉たる遊廓の如きものを許可し、八身

賣買奴隷制度を公認せるは、明に政策の矛盾である。尾崎市長は、洲崎遊廓は幸ひ市有地であるから向ふ三ケ年間地代を免除してやらうと云ふたと傳へられてゐるが、奴隷を養ひ道樂者を作り不正な懷を肥してゐる者に可憐想であるから地代を免除しやうと云ふのは何の囈語ぞと憤り。山本邦之助氏は、公娼制度の人道に背反し、風敎を攪亂する惡制度なる事を縷陳して完膚なからしめ、洲崎遊廓の再興すべからざる理由を明白にし、内ケ崎作三郎氏は、近來頻々として遊廓及學校の燒くるのは、天が遊廓の憎むべき害毒を流しつゝある事を怒り、敎育の不完全なるを警告するものであると思ふとて、更に洲崎遊廓の地理は隅田川の河口にあつて、水産講習所商船學校等が並び、海國日本の首府の河口として適切なるものが置かれてあるが、其側に屹然として遊廓の高樓が聳えてゐるのは驚くべき對照である。況んや將來東京灣の築港と共に、此洲崎の地は日本帝都の玄關となるべき土地である。旅客が亞米利加の桑港に着く時、其港口の舷頭に立つて大陸の大都府を望む時、先づ其眼底に映ずるものは半空に聳ゆる米人の理想＝自由の女神像である。夕榮の金光を浴びて輝く女神像を見て誰か壯嚴なる靈感に打たれ讃歎の聲を發せぬものがあらう。かくて行客は米人の理想を床しく思はざるを得ないのである。然るに飜つて我日本はどうであるか、東京灣の築港がなつた曉、東洋の大都府、東京灣頭に立つて、先づ網膜を刺激するものが、遊廓の時計臺であるに至つては、殆んど言ふべき言葉を知らぬではないか。然らば新興大帝國の面目の爲め既に早晩取除くべき洲崎遊廓は、此機を以て燒失したる部分の廢止をするのは最も機宜を得たるものであると述べ、成女學校長宮田修氏は、若い時娼妓に賣られ三十幾歳になつて廢業したものが、堅氣になつて暮さうとしても何も出來ず、幾度か死なんと欲したと云ふ慘怛たる實例を擧げ、公娼制度の憎むべきものなる事より、政府は之を廢止するは勿論好むべき處なれども、多數の愚民が廢止しては困るだらうといふので見合はしてゐるのであらう。我等は輿論によつて、國民の如斯ものを欲しないといふ事を知らしめたならば、政府は喜んで廢止する事と信ずるが故に、我等は諸君と共に大に輿論を作らなければならぬと説き。山田彌十郎氏は、自由廢業に就て當局者の不法なる取扱を慨し（別項昨今の自由廢業參照）司會益富氏は「我徒は賢明なる當局者が這般燒失せる洲崎遊廓の一部の再興を非とし、これが許可を與へられむ事を望む、依つて玆に之を決議す」といふ決議文を朗讀し、滿場に諮つたが、聽衆は熱狂して破るゝが如き喝采を以て之を迎へ直に滿場一致之を當局者に申達する事を可決した。（本決議文は翌日東京市民有志總代島田三郎の名を以てそれぞれ當局に送達した）最後に島田三郎氏は、世の中の改革は人心の奥底に潛んでゐる。其心が熟して遂に勃興するに至つて斷行するといふ事になる。曩に大阪北新地が燒けた時は吾々の運動に對して新聞紙は極めて冷淡であつたが過般の南新地の際は、我等の運動を毎號報導し大に援助を與へた。之は世が進歩し、人心の奥底に潛在してゐたのが次第に熟し勃

興し來つたもので。東京が大阪にも劣つて英斷を施す事が出來ぬのは遺憾千萬である。昔傳馬町に牢獄があつた時、之が火災で燒けたら罪囚を悉く放免し、三日以内は自由に市中を歩く事が出來、若し三日の中に官に出て行けば其罪は容されるといふ事であつた。然るに今日の娼妓は火災に逢つて樓に歸つたのが遲いと逃亡したと云つて警察が捕へて引渡す。今日の彼等は昔の罪囚よりも酷いのである。それを今日の人は何とも思はず、新聞紙も是認して報道してゐるのは言語同斷と云はなければならぬとて、三重の古市の有名な油屋お紺の家の廢業より、尾崎市長の免税を晒ひ、大喝采の裡に十時閉會、來會者千餘名に達し、滿員の盛況であつた。

洲崎遊廓問題大演說會第二回

三月二十七日午後六時半、本郷區春木町中央會堂に於て、第二回演說會を開く司會者横山砂氏開會の辭を述べ、矢吹幸太郎氏は、自由廢業の實例より、日本の法律は、娼妓の自由廢業に就ては何人と雖ども妨害する事を得ずとあるのに、當局警察官吏が常に妨害しつゝありとて其不法を鳴し。小松武治氏は、對岸の火災視する勿れと題し、公娼制度の花柳病の蔓延を防ぐ上に何等の効力なきものなる事より、洲崎遊廓の火災は、市民の對岸の火災視すべきものに非ざるを論じ、益富政助氏は、局、姫等の日本語が同時に娼妓の別名なる事より根本思想を論究して日本人の娼妓に對する態度を難じ、男女間の交りを慰み、遊びとなせる事を慨し公娼の存在を否定し。安部清藏氏は斷行と題し、自分の知友たる常に尊敬しつゝありし某牧師が、細君の旅行中、一度遊廓に行つたのが元で、墮落して悲慘な最後を遂げた事より、遊廓の存在は不知不識人を墮落に導くものである。今日洲崎の燒けたのは一大斷行をしなければならぬと說き。島貫氏は罪は國を辱しむると題し、米國到處に日本の醜業婦のゐる有樣を擧げ、日米國交の上に至大なる妨害となつてゐるとて、米國にも醜業婦は居るが、嘗てシカゴに博覽會が開かれた時、米國人は世界の人が集まるからといふので同地の醜業婦を悉く何處かへ除いて了つた。然るに日本では何かの會がある時は却つて醜業婦が入込む有樣であると憤慨し。山室軍平氏は、洲崎遊廓問題と題し、近日中に洲崎の貸座敷業者に與ふる事になつてゐる自著の廢業勸告文を朗讀して聽衆を感動せしめ、十時閉會、來會者三百餘名。

△廓清會演說會

四月七日、午後六時半、神田三崎町中央浸禮會館に於て廓清會演說會を開く。横山砂氏は公娼と風教と題し風教上より公娼の存在を否定し。山田彌十郎氏は罪惡の公認と題し、私娼の弊害より免れむか爲め設けた公娼制度は却つて之を助長してゐると說き。益富政助氏は、藝妓に就てと題し、近々、三百餘名の東京藝妓が大擧して伊勢參宮をするさうである。何も知らない田舍人が華麗な着物を着て揚々と押し歩くのを見て、さなきだに虛榮に流れ易い今日の子女は果して如何に心を動かされるであらう。虛榮病を流布され遊蕩を挑發されるであらうと慨し、午後九時散會、來會者百名

廓清會々員名簿　第四回

▲賛助會員之部▼（順序不同）

山梨縣北巨摩郡玉幡（一口）新海祐六氏
滋賀縣彥根町（一口）彥根婦人會
神奈川縣川崎町妙子（一口）遠藤鄕次郎氏
神戸市山手通四ノ一八（一口）村岡千仭氏
熊本市坦屋町四二（一口）今山賀壽氏
熊本市外大江村大江（一口）久保直子氏
大連市敷島町靑年會館（一口）守瀨與之吉氏
靜岡市西草深町（一口）中村元三氏
同（一口）石川淡兒氏
同市　札之辻町（一口）豐島英敏氏
同市　安西三丁目（一口）尾崎元次郎氏
同市　在大岩字丸山（一口）前田恒太郎氏
同市　鷹匠町三丁目（一口）山家謙次郎氏
大阪南、天王寺堂ヶ芝（四口）高木貞衞氏
同　眞田山（四口）緒方千重子氏
同　天王寺茶臼山（四口）宮崎優子氏
同　安堂寺町（四口）今井信子氏
同　天王寺北山町（二口）藤野露子氏
同　西、薩摩堀西（二口）小泉澄氏
同　市外濱寺（二口）石神八重子氏
同（二口）田口たけ子氏
同（二口）大塚常子氏
同市西、江戸堀南一（二口）湯淺豐太郎氏
同　中之島ホーム（一口）櫻内晰子氏
同　西、川口町（一口）バンホーン氏

大阪市西、川口町（一口）フルトン氏
同　江之子島東之町官舍中村三德方（一口）森虎之助氏
同　南、木津川町吉岡政太郎方（一口）小島善太郎氏
同　北、若松町五（一口）東山藤吉氏
同　南、天王寺（一口）五百木恒一氏
同　西、川口町六（一口）ブール氏
同　立賣堀北通（一口）島谷竹藏氏
同　土佐堀一（一口）平田つるゑ氏
同　東、靱後町二九（一口）坪井速水氏
同　町六七（一口）坪井幸子氏
同　玉造仁衞門町（一口）堀井左五郎氏
同　淡路町二（一口）湯川みち子氏
同　北、上福島北二（一口）角利吉氏
同　北三（一口）小橋賓之助氏
同　西、北堀江裏通（一口）白井兵治氏
同　西、長堀南通（一口）齋藤謙氏
同　南、桃山中學（一口）ウッド氏
同　東、北濱三（一口）武内作平氏
同　西、江戸堀北一（一口）森作太郎氏
同　京町堀上通（一口）吉岡哲夫氏
同　北、宮島町宮島組（一口）井上虎吉氏
同　東、玉造牛入町（一口）宮川恒輝氏
同　北、川崎町一（一口）山崎春二氏
同　南、眞田山精方氏方（一口）鈴木たま子氏
同　堂ヶ芝町（一口）秋山みやを氏
同　西、立賣堀北通（一口）松永龍之助氏
同　東、南久寶寺町（一口）荒木幸子氏

大阪北、堂島中二（一口）菊池章藏氏
同　東、淡路町一（一口）ボルトン氏
同　西、川口町（一口）オルチン氏
同（一口）チャプマン氏
同　東、淡路町一（一口）武内嘉藤治氏
同　博勞町二（一口）豐野ヨシ子氏
同　道修町五（二口）谷口こう子氏
同　今橋三（一口）堀内しげ子氏
同　西、江戸堀北（一口）中村三郎氏
同　東、南久太郎町（一口）杉村正太郎氏
同　西、北堀江通六（一口）田中新衞門氏
同（一口）齋藤喜三郎氏
同　江戸下三（一口）安藤忠次郎氏
同　東、高津南ノ町（一口）佐島啓助氏
同　南、天王寺堂ヶ芝（一口）山邊定子氏
同　東、北新町一（一口）緒方吉重子氏
同　西、薩摩堀西ノ町（一口）荒井榮藏氏
同　南、天王寺伶人町柳原宇吉氏方（一口）眞野忠次郎氏
同　西、川口町二一（一口）名出保太郎氏
同　西、西長堀北通二（一口）坂村諸氏
同　西、南泉尾町（一口）淸水芳吉氏
同　南、東淸水町（一口）加古平三郎氏
同（一口）加古幸惠子氏
同　南、韆町二（一口）藤仲民子氏
同　東、伏見町二（一口）津種常吉氏
同　西、阿波堀通五（一口）堀内とめ子氏
同　南、ウヰルミナ女學校（一口）モルガン氏
同　東、弓町五〇（一口）長田時行氏
同　北、西野田玉川（一口）中野長吉氏
同　北、櫻宮（一口）藤本榮子氏
同　東、高麗橋三（一口）杉野成子氏

大阪北、堂島濱通四	（一口）	鈴木安枝氏
同　西、江戸堀五	（一口）	津村福松氏
同　南、ウィルミナ女學校	（一口）	西野貞子氏
同　東、道修町四	（一口）	高安やす子氏
同　東、今橋五	（一口）	石橋爲之助氏
同　東、北新町一	（一口）	緒方銈次郎氏
同　北、天滿同心町	（一口）	青木庄藏氏
同　南、天王寺北河原町	（一口）	岩田邪歌子氏
同　東、兩替町一	（一口）	淺沼又吉氏
同　南、末吉橋通一	（一口）	高山繁氏
同	（一口）	桐山茂三郎氏
同　北、北野小松原町	（一口）	繼田正五郎氏
同　東、瓦町四	（一口）	船橋福松氏
播州鹽屋驛前	（一口）	下條源次郎氏
兵庫縣武庫郡住吉村	（一口）	淺井友太郎氏
同　青木	（一口）	高倉つね子氏
同　精道芦屋	（一口）	植木義三郎氏
同　御影町	（一口）	加藤直士氏
同　須磨一ノ谷九番	（一口）	プラテ幸氏
泉州濱寺公園南	（一口）	佐々木民子氏
同	（一口）	井原ひさ子氏
同	（一口）	アレキサンダー氏
同　石津方	（一口）	星野安子氏
大阪府下岸田濱	（一口）	金納又右衛門氏
同	（一口）	垣純吉氏
同　天下茶屋	（一口）	井口昌敎氏
神戸市葺合町	（一口）	宮尾乙女子氏
大阪南、心齋橋筋二	（一口）	丹平商會

▲正會員之部▼

（順序不同）

和歌山市元寺町二丁目	坂口米藏氏
同　三番町五	若井音三郎氏
和歌山市湊橋屋町一八	小出巨夫氏
同　新通二丁目	山本彌三郎氏
同　縣警察部	黒田喜三郎氏
同	榎本巨三氏
同	山田集一氏
同　檢疫委員部	山瀨房太郎氏
同　三木町堀詰	小野村林藏氏
群馬縣碓氷郡安中町	内田久治氏
同	水りう子氏
同　北甘樂郡小野村	久保新三郎氏
京都市三條大橋坂井方	外村義雄氏
同　竹屋町通可直方	中田辰之助氏
栗田表猿樂町大關方	横山房乃氏
牛込區宮比町一五	伊奈宇野氏
麹町區飯田町三ノ二六	橋本千二氏
神田區表猿樂町大關方	櫻田初音氏
同	村田千代氏
同	風間睦子氏
同	高橋石子氏
同	大關操氏
同	植野森々氏
京橋區築地四施療病院内	松崎まつ氏
赤坂區丹後町一一丹後館	山室太郎氏
神田區錦町三ノ九武島館	長谷川九吉氏
神田區淡路町一ノ一安藤方	平木章三氏
麹町區富士見町教會内	九鬼九十九氏
神田區淡路町二ノ七	長谷川矩氏
神田區小川町四〇	中野道成氏
神田區雉子町二〇酒井方	中村壽三郎氏
山形縣西村山郡東五百川村	鈴木直之助氏
日本橋區濱町三ノ八	安田元治氏
牛込區早稻田學生勞働會	深川直吉氏
小石川區掃除町四蓮見方	川俣辰次郎氏
神田區紅梅町二二宇津木方	野出剛氏
神田區佐久間町二丁目	越後源治郎氏
日本橋區通旅籠町八暮田方	長澤英一郎氏
小石川區水道端四〇古田方	小澤由藏氏
本郷區西須賀町一六同志會	淸水傳氏
本所區南二葉町一七	紅林猛雄氏
神田區三河町三ノ一横澤方	石川好三郎氏
府下日暮里一〇五四	伊澤エイ子氏
小石川區柳町二九	員岡鈴子氏
小石川區戸崎町一	田中いち氏
神田區美土代町芳勞館	江架正德氏
同	佐藤作右衛門氏
同	遠藤大吉氏
麹町區飯山町一ノ七	加藤冬作氏
福島縣相馬郡崎田村字館	岡崎秀作氏
山口縣山口市野田町	エーレス氏
陸前國氣仙郡盛町	千葉長三氏
長野縣東筑摩郡東川村	隈岐壽一氏
巣鴨一ノ一三	島村長吉氏
福井市[illegible]島上町四二	猪石友太郎氏
本郷區湯島新花町五六	中川清吉氏
熊本市水道町一八	瀧本幸太郎氏
同　市新屋敷二八二	本田傳吾氏
同　市外本庄新村井口方	繼新氏
神奈川縣川崎町砂子	麻生なを氏
同　町新宿吉川方	田口稔氏
同　町堀ノ内	肥田クニエ氏
同　町砂子一〇三	高橋一郎氏
同	遠藤なつよ氏
麹町女子學院	和久山こま氏
四谷區信濃町一行院境内	望月すみ子氏
本郷區向ケ岡日本工藝學校	高木不迷氏
小石川區丸山町一一	田中彌三郎氏
本郷區西竹町九東陽館	田中正資氏
靜岡市在井ノ宮靜岡ホーム	松井豐吉氏
同	村松なを氏
同	平岡ひで氏
同　市南替町六ノ二九	増田駒三郎氏
同　市北番町八九	石井辰一氏
同　町八三	鈴木孫太郎氏
同　市片羽町二一	山本英氏
同　市北番町八三	丸屋健作氏
同　市宮ヶ崎町一〇七	檜林又吉氏
同　市西草深町英語學校	遠藤謙一氏
同　市安倍町五二	多々巨房吉氏
同　市人宿町三ノ九九	大多和保次郎氏
同　市馬場町一〇八	山口順之助氏
同　市兩替一ノ二三	庄野與市氏
同　市鷹匠町一ノ一〇四	三宅惟氏
同　市二番町三三	新村梅太郎氏
同　市新通六丁目	木村又太郎氏
同　市西草深町英語學校	藤波謙太郎氏
同　市在安倍郡大里村川邊	篠本節氏
同　安倍川	榛澤惟雄氏
同　市嘉一番町二六	田中鉦太郎氏
同　縣藤枝町メソヂスト教會	末久毅太氏
同　縣江尻町東京十字社出張所	矢崎喜三郎氏
同　町新道	田村德氏
神田美土代町三營北方	松本吉藏氏

新刊

日本興業銀行總裁 添田壽一君題字
三井銀行常務取締役 早川千吉郎君序

見學餘録

星野行則君著

本書は著者が、金融事情視察の外遊中に其專門以外の事物に就ての所感を、直率に記述したるものである。支那、馬來の紀行は讀で興味深く、又獨逸産業の發達、資金供給國たる佛國の將來、英人氣質と其國勢、米人の仕事振、其他歐米諸國の産業、勞働、社會、教育、宗教等の重要問題の特異點を縱横に論議し、以て我國の將來に資せんとする處は堂々たる經國の大文字であつて、時務の解釋には絶好の資料である。而して又行文流暢、讀去り讀來て卷を措く能はざらしむる快著である。

菊判・クロス装幀優美
正價七拾錢
送料八錢

見よ！晩春の二大讀物を！好評嘖々！

不良少年

内務次官床次竹二郎君序 司法次官平沼騏一郎君序
内務參事官井上友一君序 法學博士小河滋次郎君序
家庭學校長留岡幸助君閲 小鹽高恒君譯

菊判三百六十頁
上製定價壹圓廿錢
並製定價九拾錢
郵税金八錢

原書は博士モリソンの著述に係り歐米斯界の學者が仰いで以て一大明星となす所。而して之が譯者は學理と實際とに多年蘊蓄ある小鹽高恒君の筆に成り、且つ斯道の大家、留岡幸助先生が親しく校閲したれば、本書が居然として斯學に重きを爲すは固より言ふを俟たず。若し夫れ大盜巨賊も不良少年を感化し能はざるの罪に坐するを知らば、刑事政策のこと豈他岐を要せんや。則ち知る本書は社會救濟の上に於ける絶好無二の指南車たるを。敢て江湖に推薦す。

發行所 東京京橋銀座 警醒社書店（振替東京五五三番） 本郷春木 同支店

羽仁もと子主筆

婦人之友

四月號（一日發行）定價一冊 拾八錢 郵稅一錢五厘（半年郵稅共一圓八錢 一年郵稅共二圓十錢）

●衣食住の問題

一 過渡時代の衣食住（本多靜六）……
一 都會に於ける住居難（生江孝之）
一 中等生活に要する衣服の數（記者）
一 樺太土人の簡易生活（志賀重昂）
一 外國から觀た日本の衣食住（原撫松）
一 英國中流の衣食住（鈴木英子）
一 東京に於る五十圓取の生活（一主婦）
一 かく衣食住を改めた（羽仁もと子）

●自作の禍福……文學博士 三宅雪嶺

●悲觀と樂觀と……羽仁もと子

●英國婦人を嫁に持たる姑の感想……鈴木母堂

●若き人々へ……中島海軍大佐夫人

●子供と幼稚園……加藤博士

●女中の躾け方（四）……加藤夫人

●お伽噺の話し方……羽仁もと子

●學校行の子供の雨合羽……齋藤春代

▲懸賞

毎月引續き趣味あり實益ある懸賞募集をなす

（其二）一日卅五錢宛の副食費にて家族五人一週間分の献立を作れ

▲一等十圓▲二等五圓▲三等三圓▲詳細本號を見よ……

羽仁もと子著

理想の生活 靜子の卷

▲初版即日賣却再版成る▲定價六十錢▲郵稅六錢

靜子と呼ぶ若き主婦を中心として其賢く正しく一家を經營する有樣を描き又舊弊頑固なる姑に事へてよく勉めよく忍び愛を以て遂に其頑なる心を和ぐるに至る道ゆきを記したるものにて多くの暗示と深き教訓と無限の慰藉に充ち溢れたる物語

東京小石川雜司ケ谷町 振替東京一一六〇〇番
婦人之友社
電話番町 三六九八

去るものと來るもの

何人も**廓清を愛讀せざる可らず**
廓清が門に入らざる時は和樂と幸福は即ち去る

何人も**クラブ齒磨を常用すべし**
クラブ齒磨が口に入る時は健康と爽快は直に來る

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）
（明治四十五年四月十五日納本）（毎月一回十五日發行）
本誌一部定價金六錢